

四日市市高齢者介護に関する調査結果報告書

〔若年者調査〕

令和2年3月
四日市市

目次

I	調査の概要	1
	1. 調査の目的	1
	2. 調査の方法	1
	3. 配布・回収数	1
	4. 報告書の見方(注意事項)	1
II	調査結果	2
	問 1 ご本人の状況について	2
	問 2 介護と就労について	5
	問 3 介護保険のサービスについて	14
	問 4 日常生活の不安について	19
	問 5 日常生活の支援について	21
	問 6 健康について	28
	問 7 認知症対策について	34
	問 8 在宅医療について	39
	問 9 これからの高齢者介護について	46

I 調査の概要

1. 調査の目的

四日市市では、令和3年度からの次期「介護保険事業計画」および「高齢者福祉計画」の策定作業を進めています。この調査は、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の福祉全般にかかわる各種サービス提供を充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2. 調査の方法

- ①調査対象地域 四日市市全域
- ②調査対象者 四日市市にお住まいの要支援・要介護認定を受けていない40～64歳の人
- ③調査期間 令和元年12月(調査基準日は令和元年12月1日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3. 配布・回収数

配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
1,000	538	53.8%	5	533	53.3%

4. 報告書の見方(注意事項)

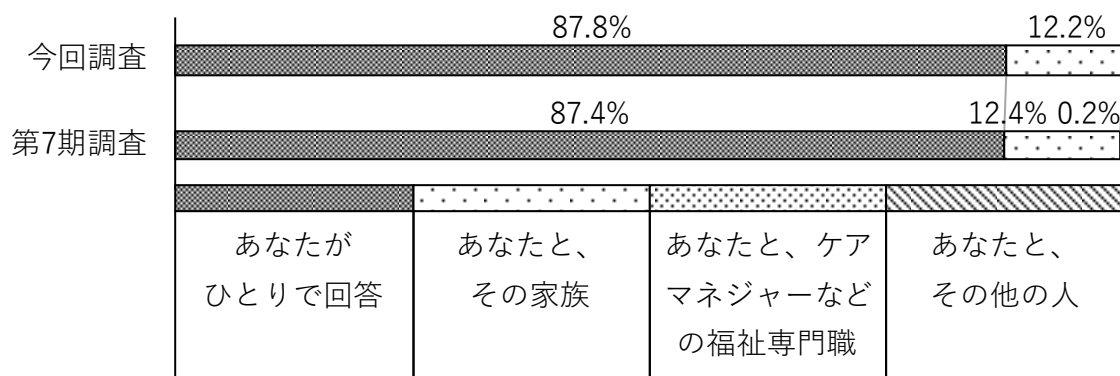
- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ⑥ 性・年齢別クロス集計については、『40代男』、『50代男』、『60代前半男』、『40代女』、『50代女』、『60代前半女』の6区分で集計します。
- ⑦ 地区別クロス集計については、日常生活圏域のブロックである『北ブロック』、『中ブロック』、『南ブロック』の3区分での集計を基本とし、必要に応じて24の日常生活圏域別の集計を行います。なお、『わからない』については回答者数が少ないため本報告書では割愛しています。

II 調査結果

問1 ご本人の状況について

(1) このアンケートに回答する人は、あなた(封筒のあて名の人)とどのような続柄の人ですか。(○はひとつ) 【N=526、516(第7期調査)】

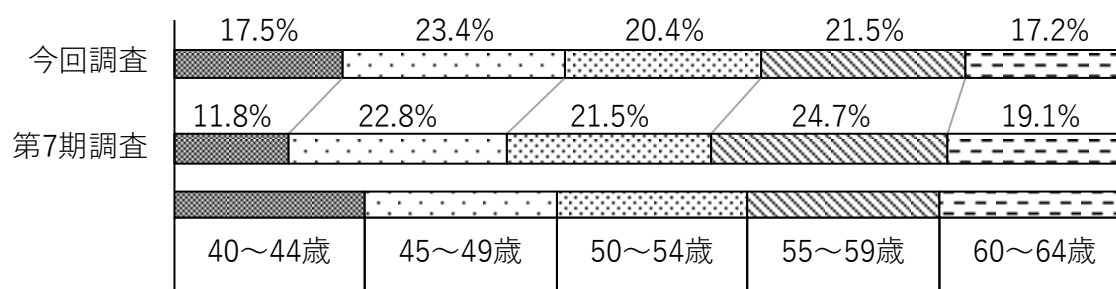
調査票の回答者については、「あなたがひとりで回答」が87.8%を占めています。



(2) 令和元年12月1日現在のあなたの年齢を教えてください。(○はひとつ) 【N=530、534(第7期調査)】

年齢については、「45～49歳」が23.4%と最も高く、次いで、「55～59歳」(21.5%)、「50～54歳」(20.4%)、「40～44歳」(17.5%)と続いています。

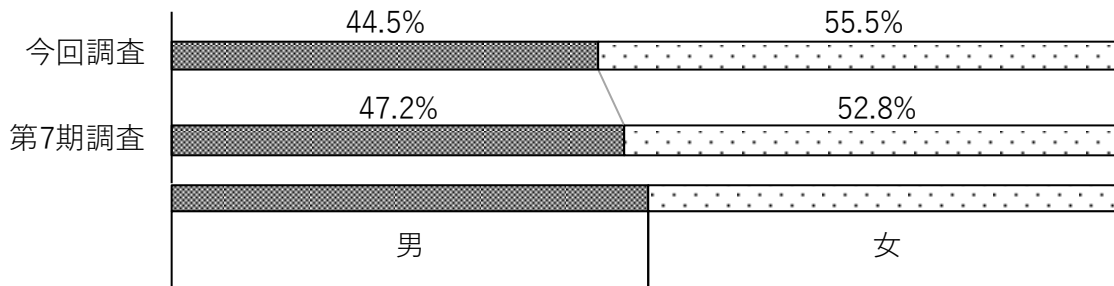
第7期調査と比較すると、「40～44歳」が5.7ポイント上昇しています。



(3) あなたの性別を教えてください。(○はひとつ) 【N=519、525(第7期調査)】

性別については、「男性」が44.5%、「女性」が55.5%と、「女性」が「男性」を11.0ポイント上回っています。

第7期調査と比較すると、「女性」が2.7ポイント上昇しています。

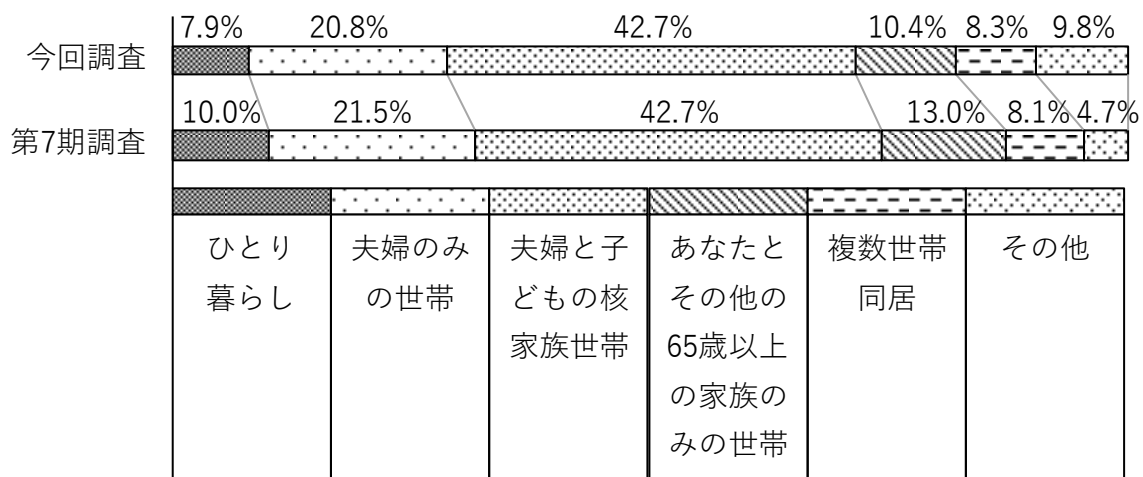


(4) 令和元年12月1日現在の世帯の状況を教えてください。(○はひとつ)

【N=529、531(第7期調査)】

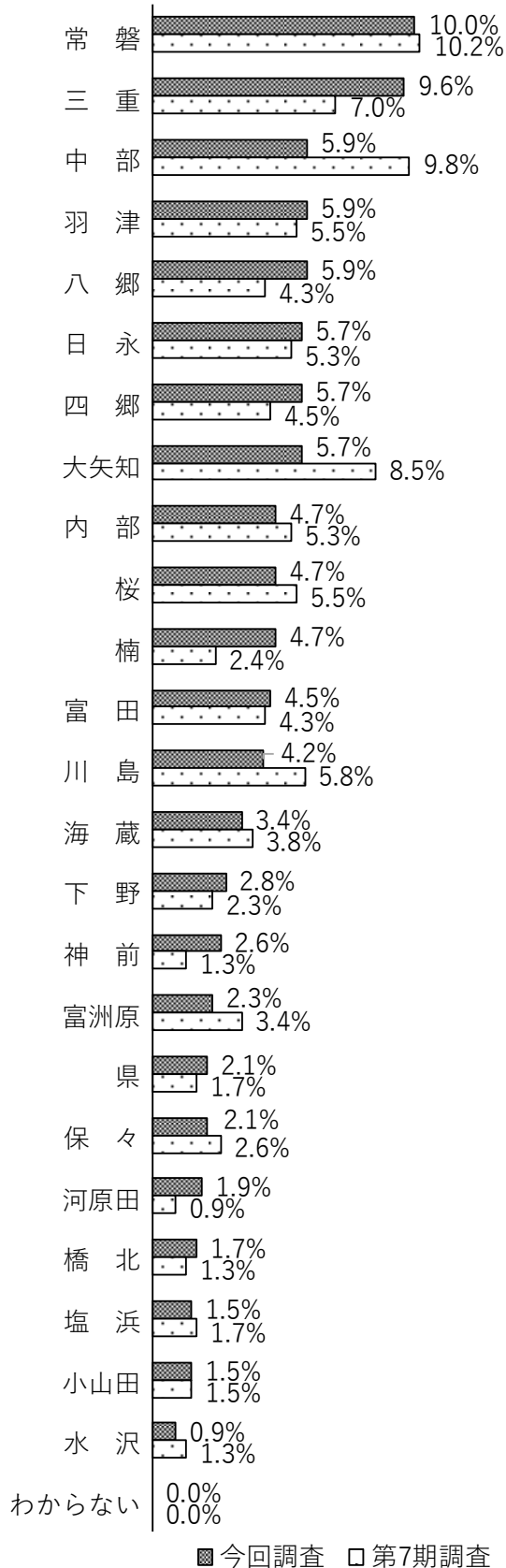
世帯状況については、「夫婦と子どもの核家族世帯」が42.7%で最も高く、次いで、「夫婦のみの世帯」(20.8%)、「あなたとその他の65歳以上の家族のみの世帯」(10.4%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「その他」が5.1ポイント上昇する一方、「あなたとその他の65歳以上の家族のみの世帯」が2.6ポイント、「ひとり暮らし」が2.1ポイント、それぞれ低下しています。



(5) あなたは、現在、どちらにお住まいですか。(○はひとつ) 【N=529、532(第7期調査)】

居住地区については、「常磐」が10.0%で最も高く、次いで、「三重」(9.6%)、「中部」(5.9%)が続いています。

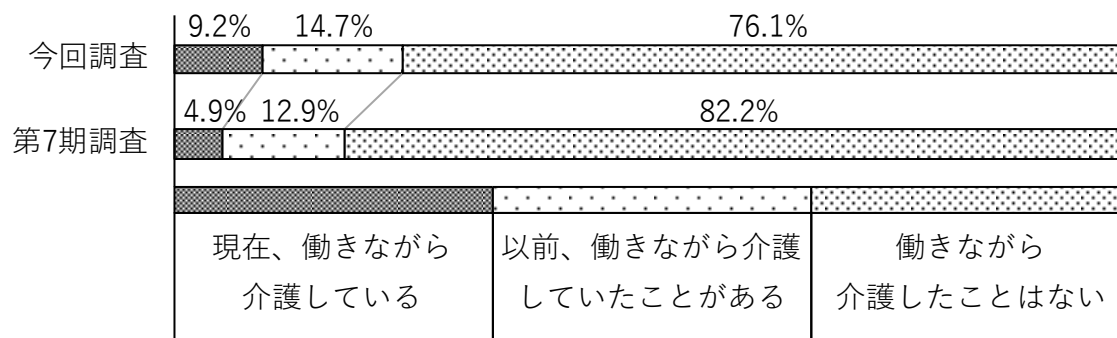


問2 介護と就労について

(1) これまでに、ご自分が働きながら、ご家族・ご親族のどなたかを介護されたことはありますか。(○はひとつ) 【N=511、511(第7期調査)】

働きながらの介護経験については、「働きながら介護したことはない」が76.1%を占めます。一方、『介護経験のある人』は合わせて23.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「現在、働きながら介護している」が4.3ポイント上昇する一方、「働きながら介護したことはない」が6.1ポイント低下しています。



世帯状況別クロス

世帯状況別にみると、『夫婦のみの世帯』と『その他』では『介護経験がある人』がそれぞれ、26.4%、29.4%あります。一方、『ひとり暮らし』と『夫婦と子どもの核家族世帯』では「働きながら介護したことはない」がそれぞれ79.5%、78.0%と高くなっています。

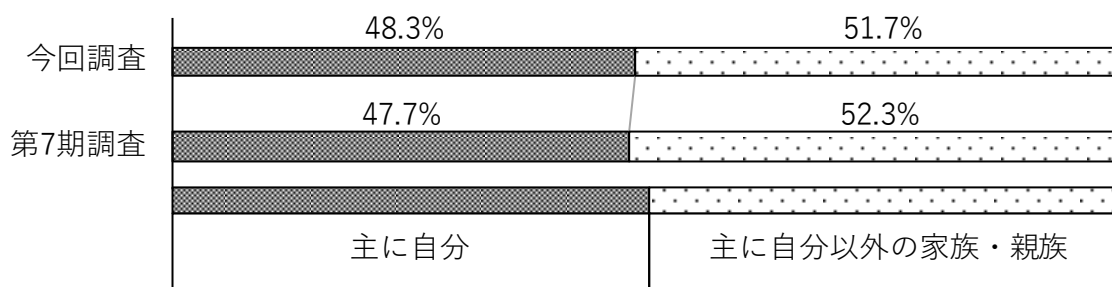
	合計	現在、働きながら介護している	以前、働きながら介護していたことがある	働きながら介護したことはない
全体	510	9.2	14.7	76.1
ひとり暮らし	39	5.1	15.4	79.5
夫婦のみの世帯	110	10.9	15.5	73.6
夫婦と子どもの核家族世帯	218	7.8	14.2	78.0
あなたとその他の65歳以上の家族のみの世帯	50	12.0	12.0	76.0
複数世帯同居	42	7.1	16.7	76.2
その他	51	13.7	15.7	70.6

【(1)で「1.現在、働きながら介護している」「2.以前、働きながら介護していたことがある」を選んだ人に伺います。下の①②③ともにお答えください。】

(1)-① 主に介護している(いた)のはどなたですか。(○はひとつ)

【N=120、86(第7期調査)】

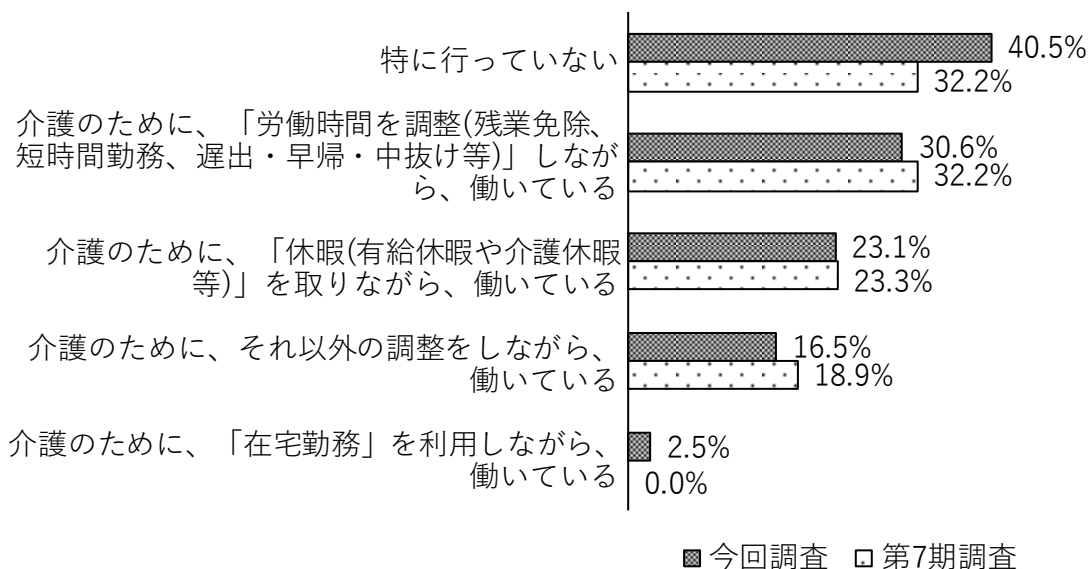
主に介護しているのは誰かについては、「主に自分以外の家族・親族」が51.7%を占め、「主に自分」は48.3%となっています。



(1)-② 介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(しましたか)。(当てはまるものすべてに○) 【N=121、90(第7期調査)】

働き方の調整等については、「特に行っていない」が40.5%で最も高く、次いで、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(30.6%)、「介護のために、「休暇(有給休暇や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(23.1%)が続いています。

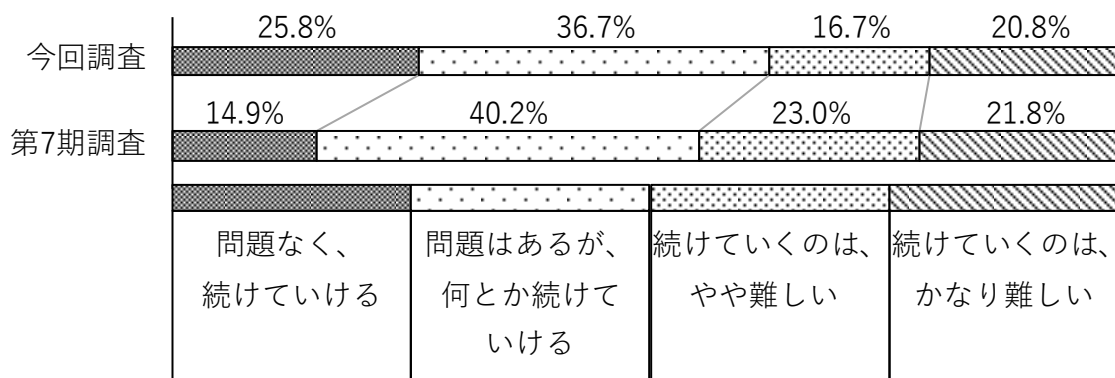
第7期調査と比較すると、「特に行っていない」が8.3ポイント上昇しています。



(1)-③ 働きながら介護を続けていけそうですか(続けられましたか)。(○はひとつ) 【N=120、87(第7期調査)】

働きながら介護を続けていけそうかどうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が36.7%と最も高く、「問題なく、続けていける」(25.8%)と合わせると、『続けていける』と思っている人は62.5%を占めます。一方、「続けていくのは、かなり難しい」は20.8%、「続けていくのは、やや難しい」は16.7%と、続けていくことを『難しい』と思っている人は合わせて37.5%となっています。

第7期調査と比較すると、『続けていける』と思っている人が7.4ポイント上昇しています。

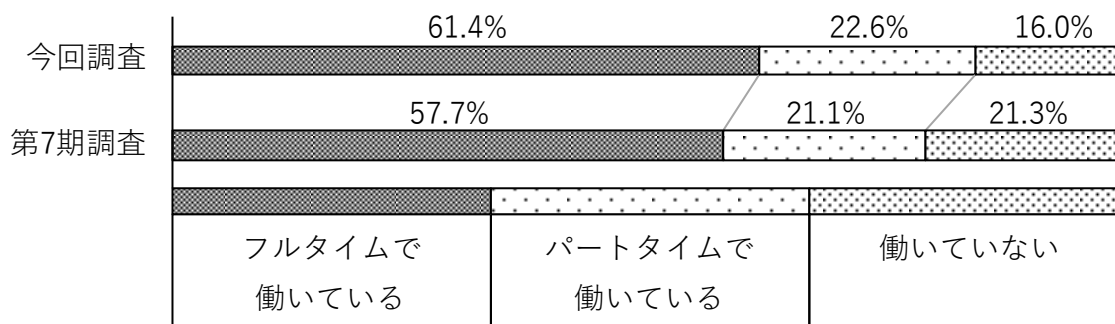


再び、すべての方にお伺いします。

(2) 現在の勤務形態について、ご回答ください。(○はひとつ) 【N=518、522(第7期調査)】

現在の勤務形態については、「フルタイムで働いている」が61.4%を占め、「パートタイムで働いている」が22.6%、「働いていない」が16.0%となっています。

第7期調査と比較すると、「フルタイムで働いている」が3.7ポイント上昇する一方、「働いていない」が5.3ポイント低下しています。

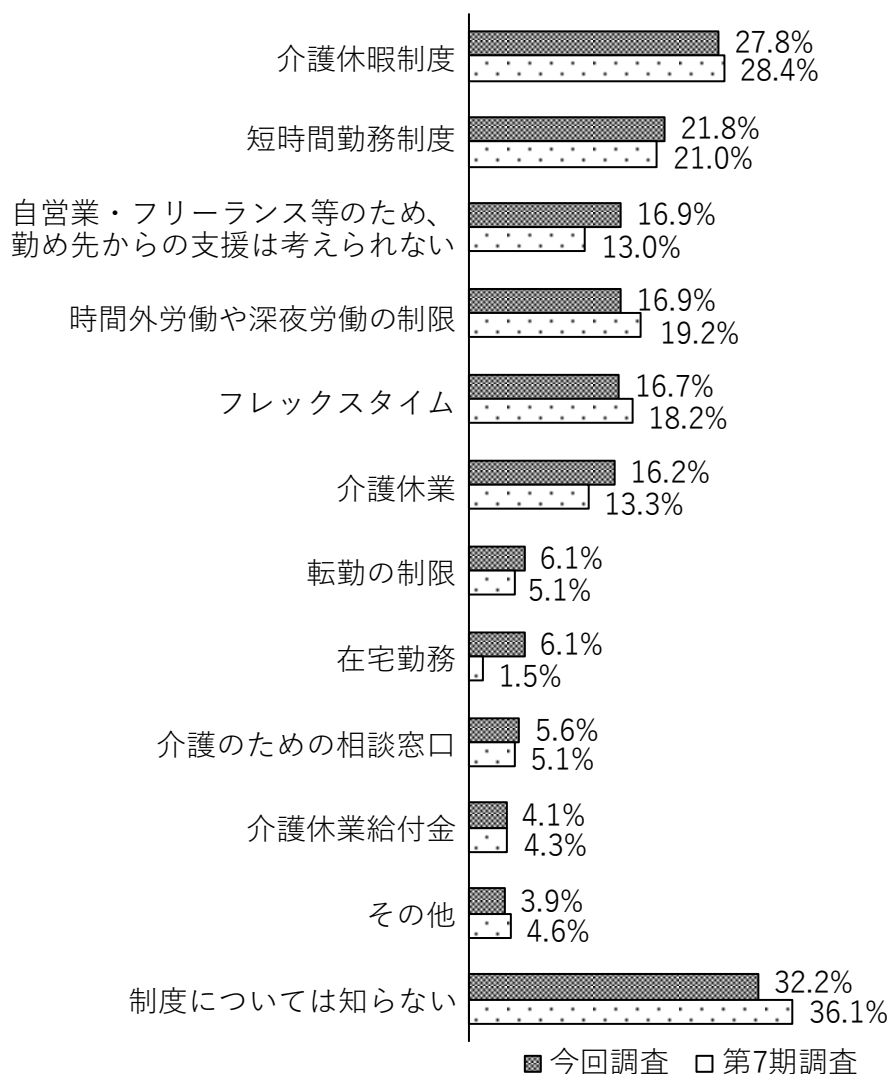


【(2)で「1.フルタイムで働いている」「2.パートタイムで働いている」を選んだ人に伺います。下の①②ともにお答えください。】

(2)-① 勤め先には、次のような制度がありますか。(当てはまるものすべてに○)
【N=413、391(第7期調査)】

勤め先にある制度については、「制度については知らない」が32.2%で最も高くなっています。知っている制度としては、「介護休暇制度」が27.8%で最も高く、次いで、「短時間勤務制度」(21.8%)が続いています。一方、「自営業・フリーランス等のため、勤め先からの支援は考えられない」は16.9%となっています。

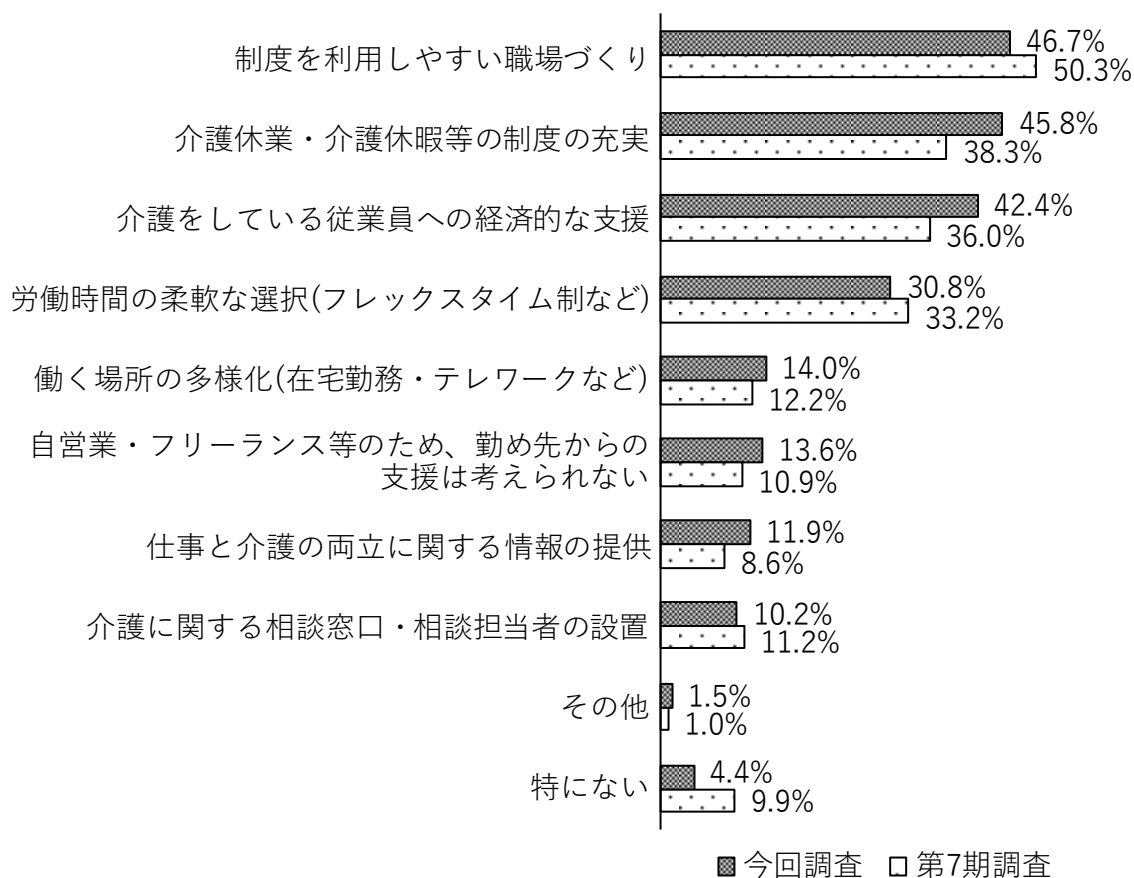
第7期調査と比較すると、「制度については知らない」が3.9ポイント低下する一方、「在宅勤務」が4.6ポイント上昇しています。また、「自営業・フリーランス等のため、勤め先からの支援は考えられない」も3.9ポイント上昇しています。



(2)-② 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(○は3つまで) 【N=413、394(第7期調査)】

仕事と介護の両立に効果があると思う支援については、「制度を利用しやすい職場づくり」が46.7%で最も高く、次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(45.8%)が僅差で続き、以下、「介護をしている従業員への経済的な支援」(42.4%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(30.8%)が続いています。一方、「特にない」は4.4%となっています。

第7期調査と比較すると、「特にない」が5.5ポイント低下する一方、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が7.5ポイント、「介護をしている従業員への経済的な支援」が6.4ポイント、それぞれ上昇しています。

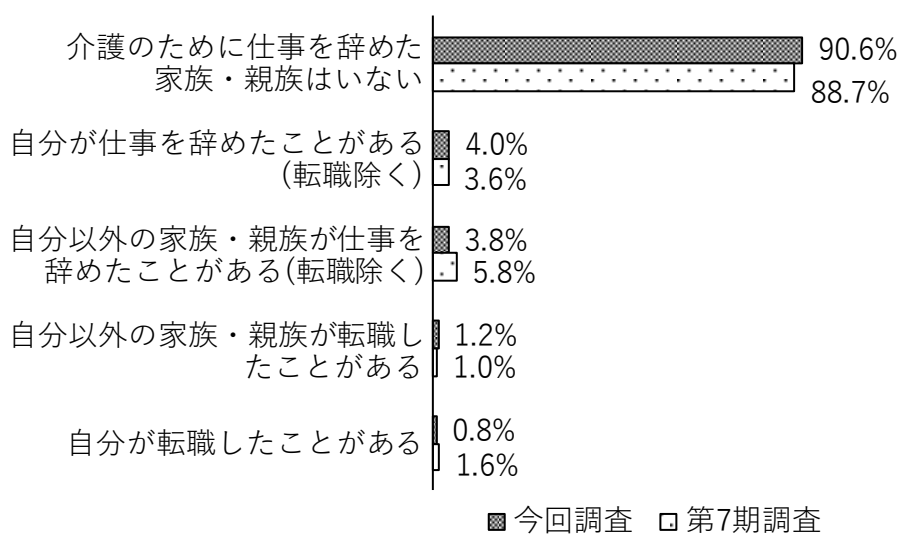


再び、すべての方にお伺いします。

(3) ご家族やご親族の中で、介護を主な理由として仕事を辞めたことのある方はいますか。(当てはまるものすべてに○) 【N=520、503(第7期調査)】

介護を主な理由として仕事を辞めたことのある方の有無については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が90.6%と、突出して高くなっています。一方、「自分が仕事を辞めたことがある(転職除く)」は4.0%、「自分以外の家族・親族が仕事を辞めたことがある(転職除く)」は3.8%と、自分や自分以外の家族等が仕事を辞めたことがある人は合わせて7.8%あります。

第7期調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が1.9ポイント上昇し、「自分以外の家族・親族が仕事を辞めたことがある(転職除く)」が2.0ポイント低下しています。

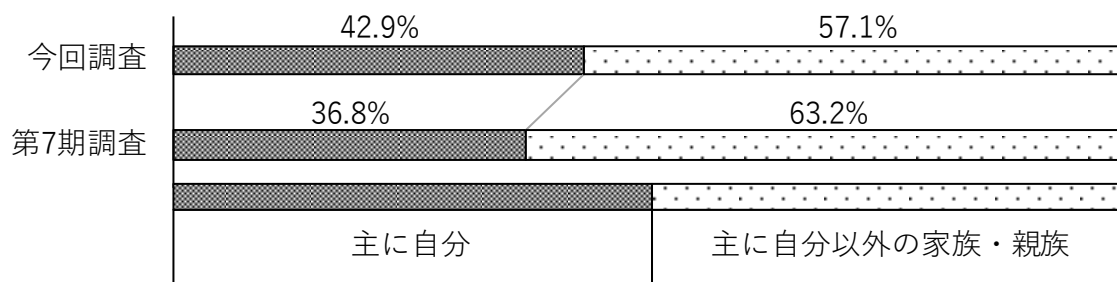


【(3)で「1.」「2.」「3.」「4.」を選んだ人に伺います。下の①～⑥までにお答えください。】

(3)-① その時、主に介護していたのはどなたですか。(○はひとつ) 【N=49、57(第7期調査)】

主に介護していたのは誰かについては、「主に自分以外の家族・親族」が57.1%を占め、「主に自分」は42.9%となっています。

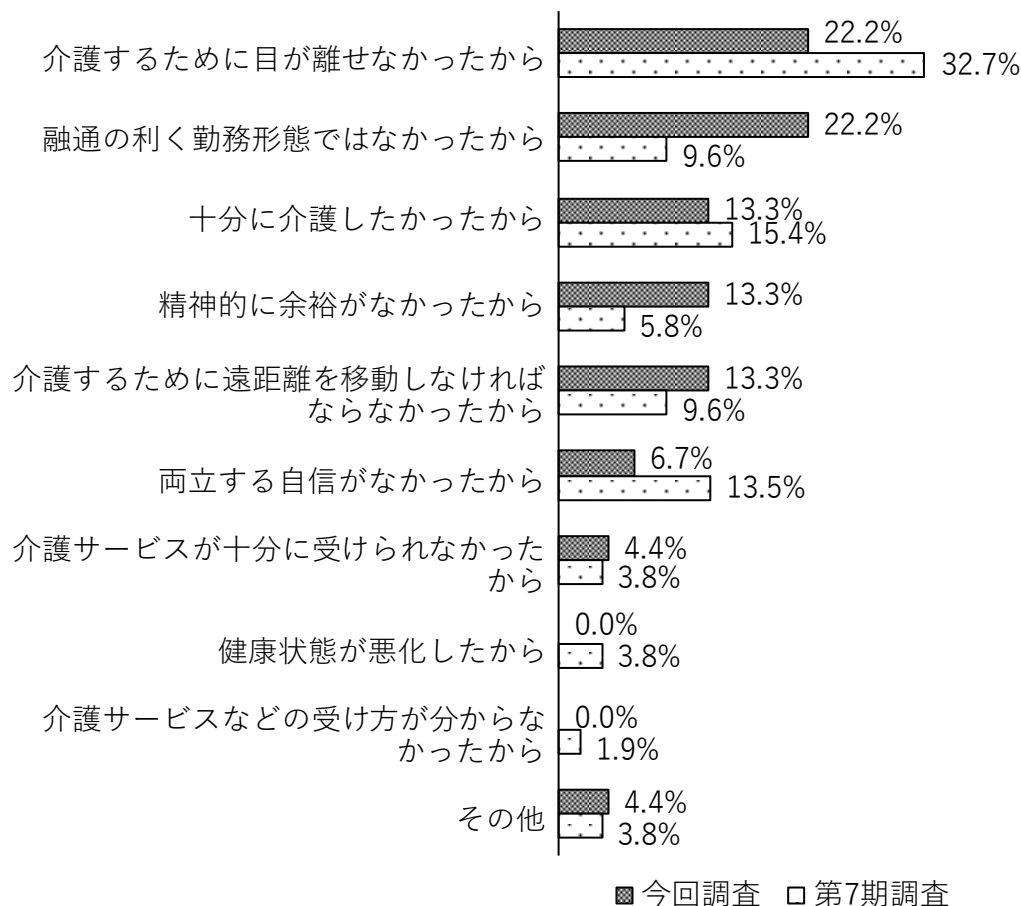
第7期調査と比較すると、「主に自分」が6.1ポイント上昇しています。



(3)-② 仕事を辞めたり、転職したりしなければならなかった最も大きな理由は何ですか。(○はひとつ) 【N=45、52(第7期調査)】

仕事を辞めたり、転職したりしなければならなかった最も大きな理由については、「介護するために目が離せなかったから」と「融通の利く勤務形態ではなかったから」が同率(22.2%)で最も高く、次いで、「十分に介護したかったから」と「精神的に余裕がなかったから」、「介護するために遠距離を移動しなければならなかったから」が同率(13.3%)で続いています。

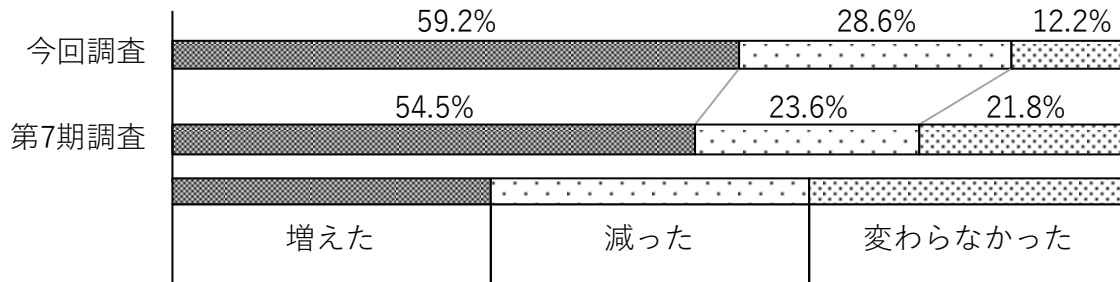
第7期調査と比較すると、「融通の利く勤務形態ではなかったから」が12.6ポイント上昇する一方、「介護するために目が離せなかったから」が10.5ポイント低下しています。



(3)-③ 仕事を辞めたり、転職したりしたことで、経済的な負担は変化しましたか。(○はひとつ) 【N=49、55(第7期調査)】

経済的な負担の変化については、経済的な負担が「増えた」は59.2%、「減った」は28.6%、「変わらなかった」は12.2%となっています。

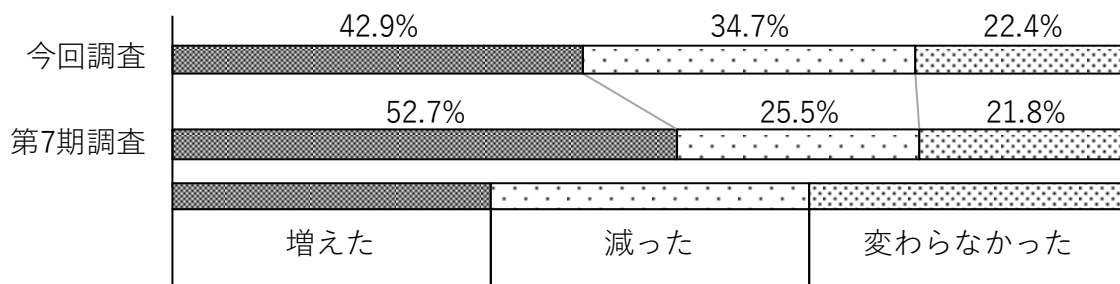
第7期調査と比較すると、「増えた」が4.7ポイント、「減った」が5.0ポイント、それぞれ上昇しています。



(3)-④ 仕事を辞めたり、転職したりしたことで、精神的な負担は変化しましたか。(○はひとつ) 【N=49、55(第7期調査)】

精神的な負担の変化については、精神的な負担が「増えた」は42.9%、「減った」は34.7%、「変わらなかった」は22.4%となっています。

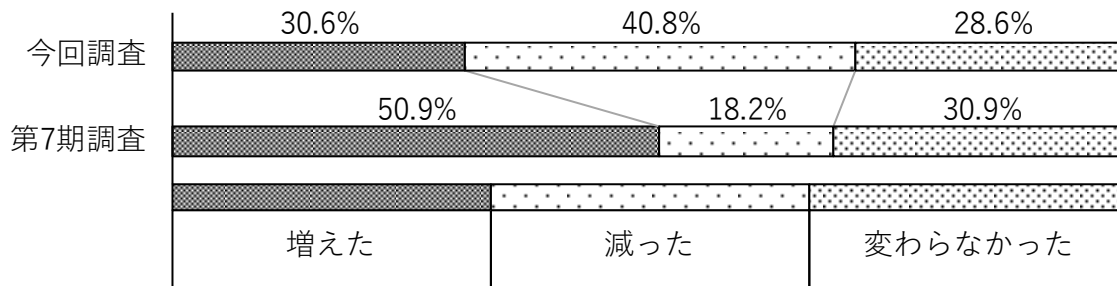
第7期調査と比較すると、「増えた」が9.8ポイント低下する一方、「減った」が9.2ポイント上昇しています。



(3)-⑤ 仕事を辞めたり、転職したりしたことで、肉体的な負担は変化しましたか。(○はひとつ) 【N=49、55(第7期調査)】

肉体的な負担の変化については、肉体的な負担が「減った」が40.8%、「増えた」が30.6%、「変わらなかった」が28.6%となっています。

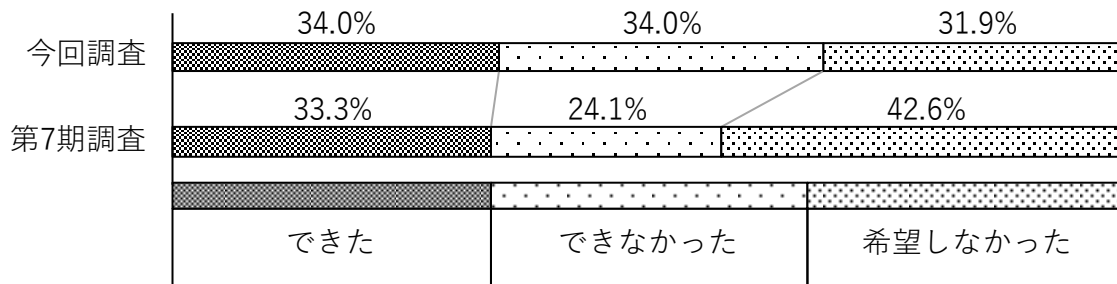
第7期調査と比較すると、「増えた」が20.3ポイント低下する一方、「減った」は22.6ポイント上昇しています。



(3)-⑥ 再就職したり、復職したりすることはできましたか。(○はひとつ) 【N=47、54(第7期調査)】

再就職や復職については、再就職したり、復職したりすることが「できた」と「できなかった」が同率(34.0%)となっています。また、「希望しなかった」は31.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「できなかった」が9.9ポイント上昇しています。

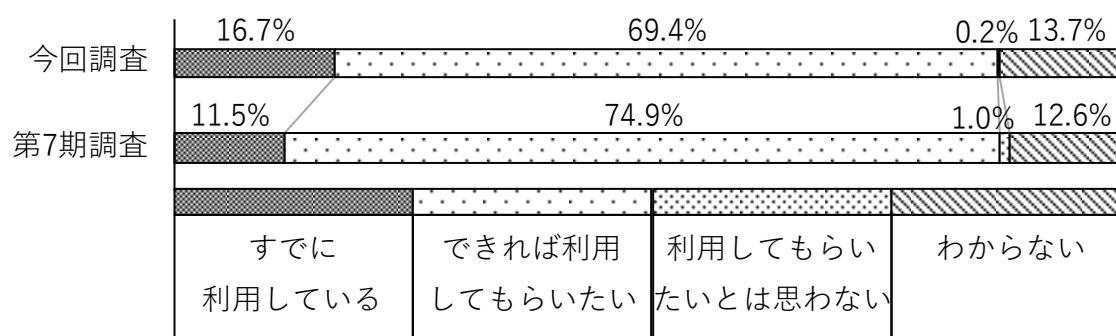


問3 介護保険のサービスについて

(1) あなたは、ご家族に介護が必要になった場合、介護保険のサービスを受けてもらいたいと思いますか。(○はひとつ) 【N=526、522(第7期調査)】

家族等に介護保険サービスを利用してもらいたいかどうかについては、「できれば利用してもらいたい」が69.4%を占め、「すでに利用している」は16.7%となっています。一方、「利用してもらいたいとは思わない」は僅か0.2%となっています。

第7期調査と比較すると、「すでに利用している」が5.2ポイント上昇しています。



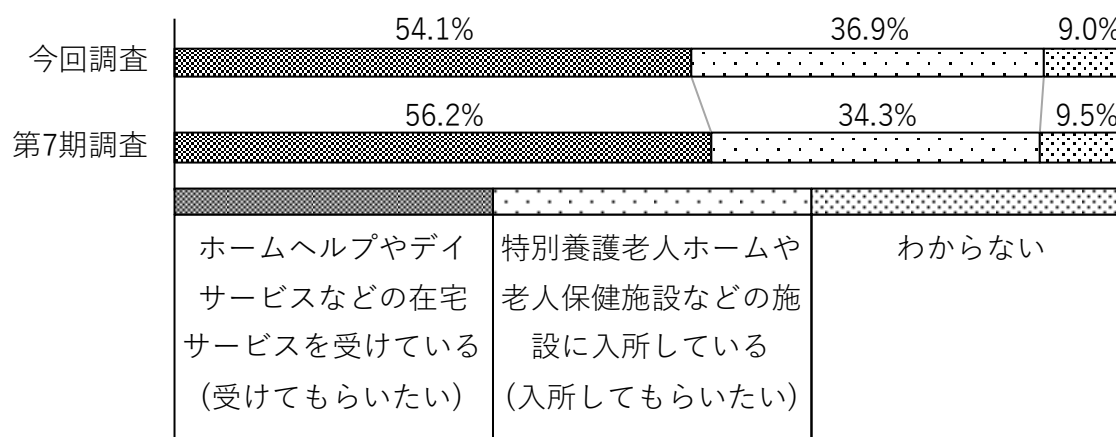
【(1)で「1.すでに利用している」または「2.できれば利用してもらいたい」を選んだ人に伺います。】

(1)-① 介護保険制度を活用して、主にどのようなサービスを利用していますか、あるいは利用してもらいたいですか。(○はひとつ)

【N=442、443(第7期調査)】

利用している、利用してもらいたいサービスについては、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けている(受けってもらいたい)」が54.1%を占めており、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所している(入所してもらいたい)」は36.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けている(受けってもらいたい)」が2.1ポイント低下する一方、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所している(入所してもらいたい)」が2.6ポイント上昇しています。



ブロック別クロス

ブロック別にみると、いずれのブロックでも全体結果と同様に「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けている(受けてもらいたい)」が最も高くなっており、特に『南ブロック』では59.0%に上っています。一方、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所している(入所してもらいたい)」については、『北ブロック』で45.4%と高くなっています。

	合計	どの在宅サービスを受けている(受けてもらいたい)	ホームヘルプやデイサービス(受けてもらいたい)	施設入所している(入所してもらいたい)	特別養護老人ホームや老人保健施設に入所している(入所してもらいたい)	わからない
全体	439	54.0	36.9	9.1		
北ブロック	141	49.6	45.4	5.0		
中ブロック	132	52.3	36.4	11.4		
南ブロック	166	59.0	30.1	10.8		

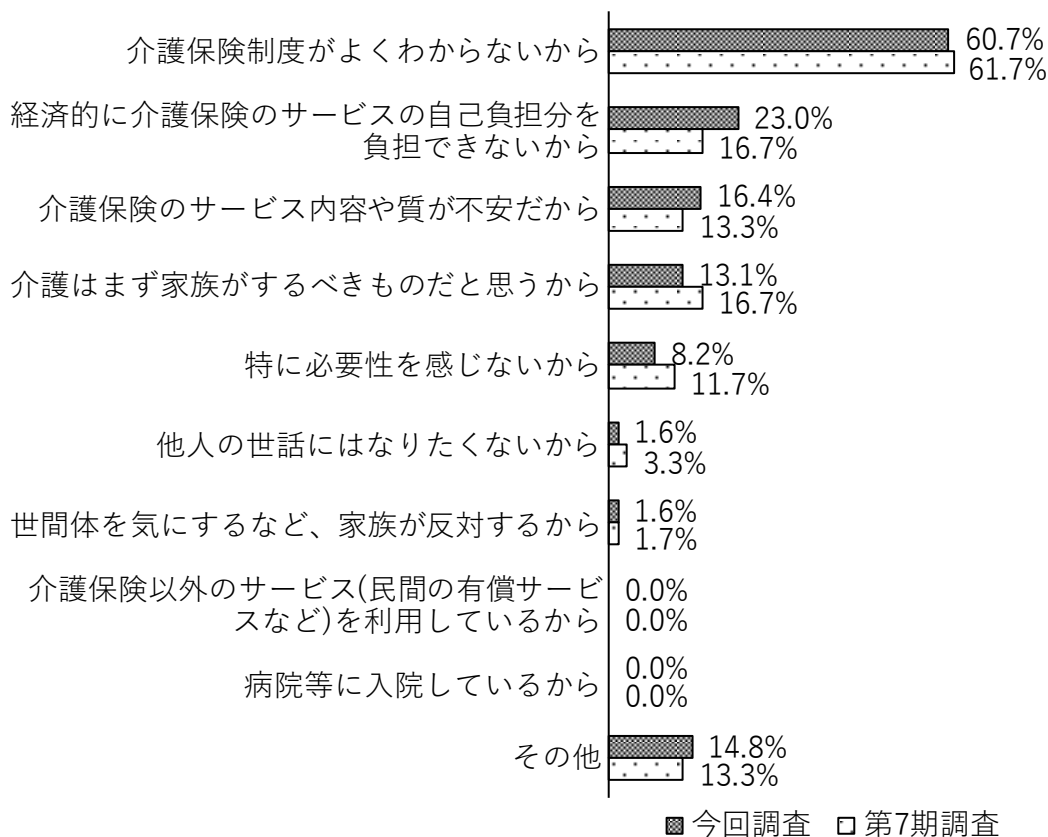
【(1)で「3.利用してもらいたいとは思わない」または「4.わからない」を選んだ人に伺います。】

(1)-② その理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

【N=61、60(第7期調査)】

利用してもらいたいとは思わない、または、わからない理由については、「介護保険制度がよくわからないから」が60.7%と突出して高くなっています。次いで、「経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから」(23.0%)、「介護保険のサービス内容や質が不安だから」(16.4%)が続いています。

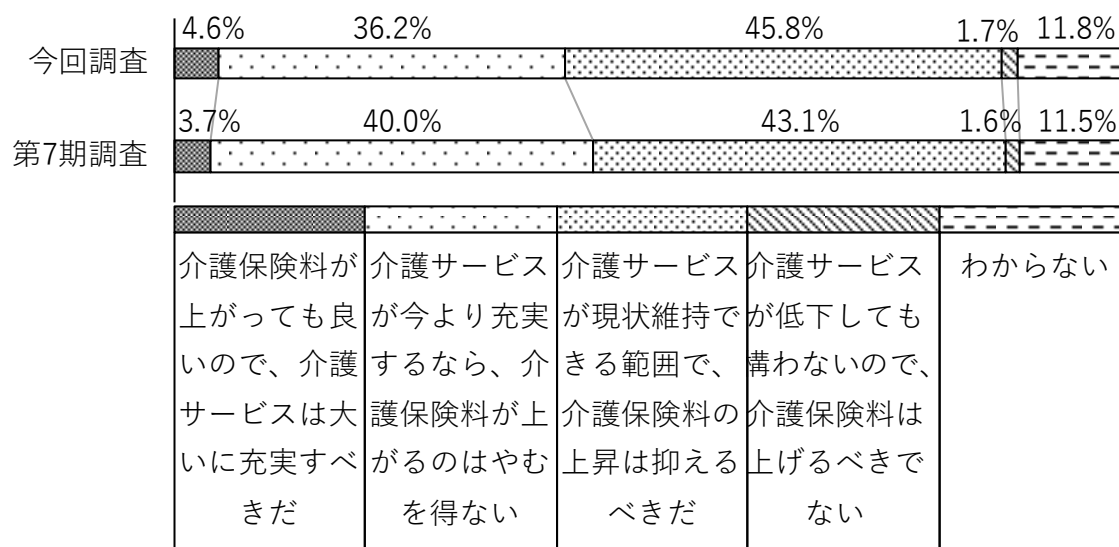
第7期調査と比較すると、「介護はまず家族がすべきものだと思うから」が3.6ポイント、「特に必要性を感じないから」が3.5ポイント、それぞれ低下する一方、「経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから」が6.3ポイント上昇しています。



(2) 介護保険は急速に利用が増え、現状のまま伸びていくと、将来の介護保険料は現在よりもかなり上昇することが予測されています。介護サービスと介護保険料とのバランスについてどう思いますか。(○はひとつ) 【N=417、427(第7期調査)】

介護サービスと介護保険料とのバランスについては、「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」が45.8%で最も高く、次いで、「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」が36.2%で続いています。

第7期調査と比較すると、「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」が3.8ポイント低下する一方、「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」が2.7ポイント上昇しています。



介護経験別クロス

介護経験別にみると、いずれの介護経験でも全体結果と同様に「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」が最も高くなっており、特に、『現在、働きながら介護している』と『以前、働きながら介護していたことがある』といった介護経験のある人では過半数を占めています。

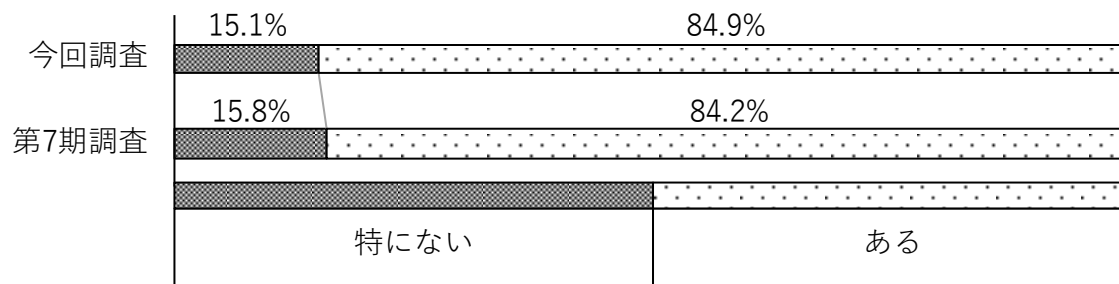
	合計	すべきだ	介護保険料が上がるよりも良い実の	やむを得ない	なら、介護保険料がより充実は	介護サービスが現状維持できる	範囲で、介護保険料の上昇は抑	えらるべきだ	介護サービスが現状維持できる	べきでない	介護サービスが低下しても構わ	ないで、介護保険料は上げ	介護サービスが低下しても構わ	わからない
全体	401	4.5	36.2	45.9	1.7	11.7								
現在、働きながら介護している	42	4.8	35.7	52.4	-	7.1								
以前、働きながら介護していたことがある	60	6.7	30.0	53.3	3.3	6.7								
働きながら介護したことはない	299	4.0	37.5	43.5	1.7	13.4								

問4 日常生活の不安について

(1) あなたは、将来に向けて、不安に思うことがありますか。(○はひとつ)

【N=529、530(第7期調査)】

将来に向けて不安に思うことが「ある」と答えた人が84.9%を占め、「特にない」(15.1%)の5倍以上に上っています。

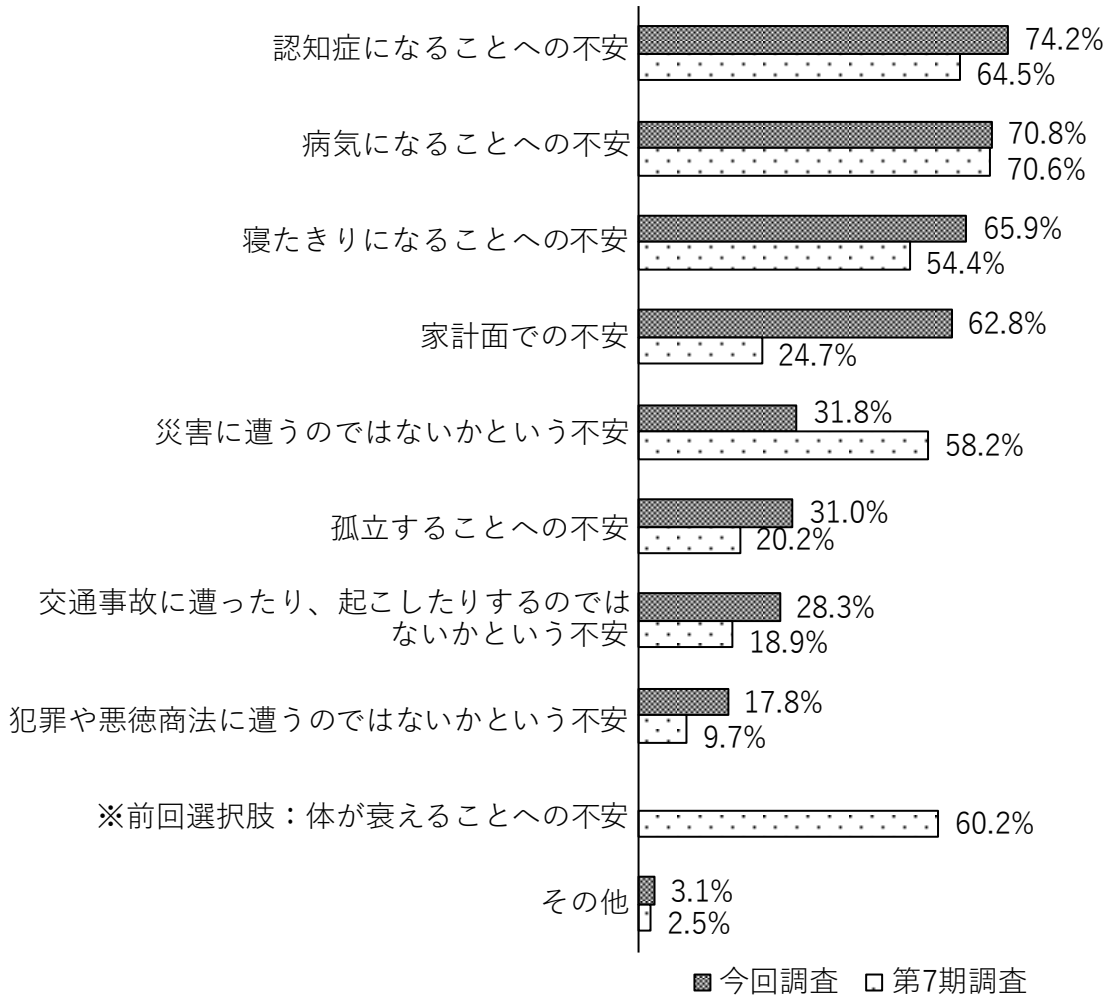


【(1)で「2.ある」を選んだ人に伺います。】

(1)-① どのようなことが不安ですか。(当てはまるものすべてに○)

【N=449、445(第7期調査)】

不安の内容については、「認知症になることへの不安」が74.2%で最も高く、次いで、「病気になることへの不安」(70.8%)、「寝たきりになることへの不安」(65.9%)と続き、健康面に不安を持っている人が多いことがうかがえます。一方、「家計面での不安」も62.8%あり、経済的な不安を持っている人も多い結果となっています。

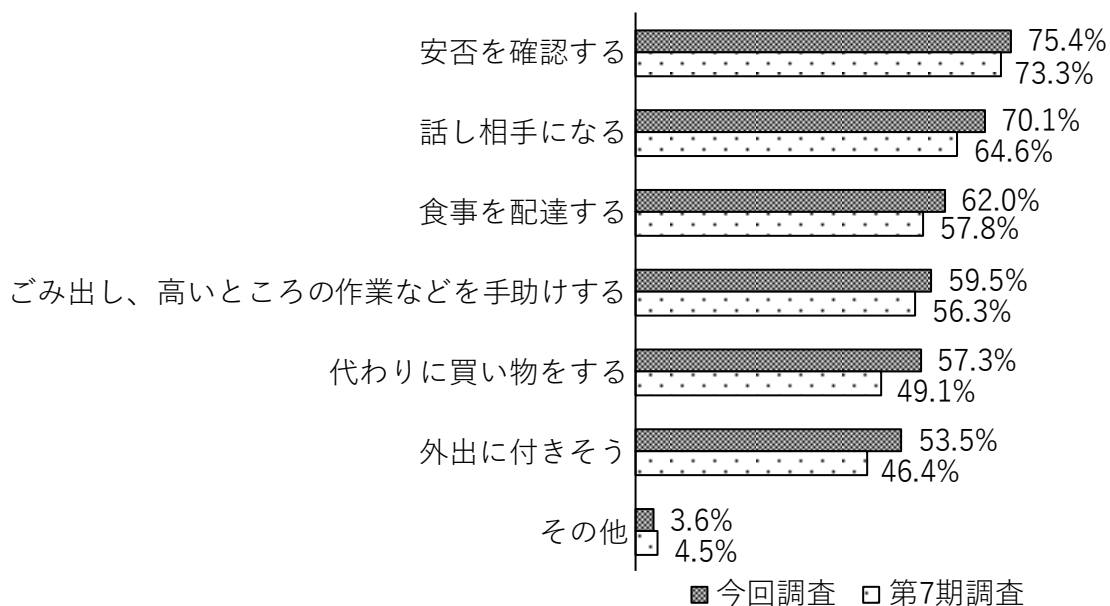


問5 日常生活の支援について

(1) 介護や支援が必要な人の日常生活を手助けするために、どのようなことが必要だと思いますか。(当てはまるものすべてに○) 【N=529、528(第7期調査)】

介護や支援が必要な人の日常生活を手助けするために必要なことについては、「安否を確認する」が75.4%で最も高くなっています。次いで、「話し相手になる」(70.1%)、「食事を配達する」(62.0%)、「ごみ出し、高いところの作業などを手助けする」(59.5%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「代わりに買い物をする」が8.2ポイント、「外出に付きそう」が7.1ポイント上昇するなど、ほとんどの項目で上昇しています。



性・年齢別クロス

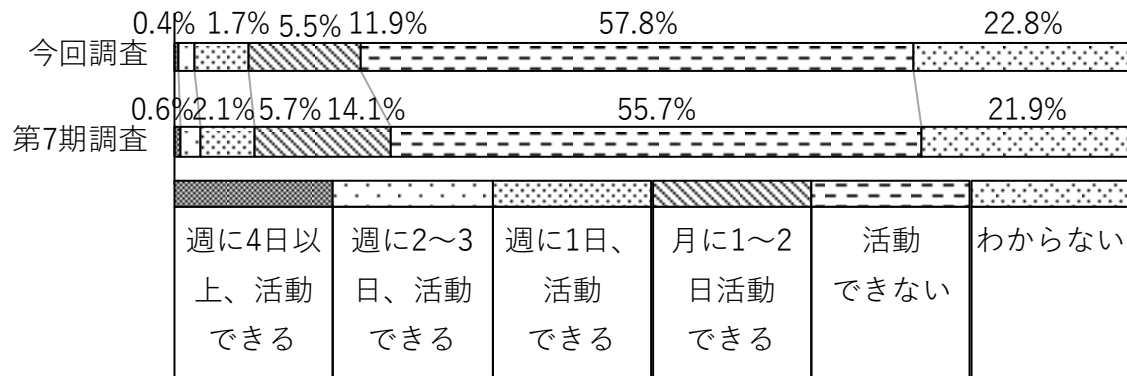
性・年齢別にみると、『40代』男女と『60代前半女』では全体結果と同様に、「安否を確認する」が最も高くなっていますが、その他の性・年齢では「話し相手になる」が最も高くなっています。

		合計	安否を確認する	外出に付きそう	ごみ出し、高いところの作業などを手助けする	代わりに買い物をする	食事を配達する	話し相手になる	その他
40代	全体	214	76.6	54.2	54.7	54.7	64.5	65.4	2.3
	男	90	75.6	44.4	46.7	46.7	54.4	57.8	2.2
	女	124	77.4	61.3	60.5	60.5	71.8	71.0	2.4
50代	全体	214	72.9	57.9	65.0	60.7	60.3	74.8	5.1
	男	103	68.9	53.4	65.0	65.0	59.2	69.9	4.9
	女	111	76.6	62.2	64.9	56.8	61.3	79.3	5.4
60代前半	全体	87	77.0	43.7	59.8	56.3	62.1	72.4	3.4
	男	37	70.3	35.1	51.4	56.8	59.5	78.4	5.4
	女	50	82.0	50.0	66.0	56.0	64.0	68.0	2.0

(2) あなたは、前問のような日常生活を手助けするボランティアとして、活動することはできますか。(○はひとつ) 【N=531、526(第7期調査)】

ボランティアとして活動することができるかどうかについては、「活動できない」が57.8%を占めています。「月に1～2日活動できる」(11.9%)や「週に1日、活動できる」(5.5%)などの『活動できる』と回答した人は合わせて19.5%となっています。

第7期調査と比較すると、『活動できる』が3.0ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢別でも「活動できない」が最も高くなっていますが、特に、『40代男』と『50代男』では60%を超えています。一方、『活動できる』は『60代前半女』では25.0%と他の性・年齢に比べて高くなっています。

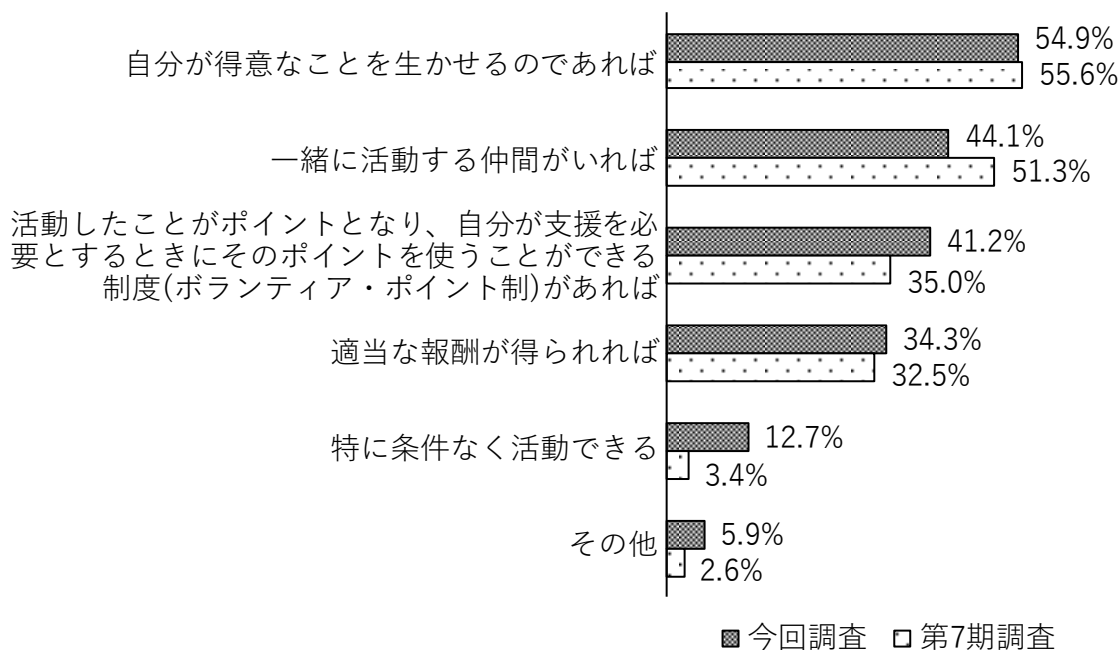
	合計	週に4日以上、活動できる	週に2～3日、活動できる	週に1日、活動できる	月に1～2日活動できる	活動できない	わからない	
40代	全体	214	0.5	0.9	7.0	10.3	61.2	20.1
	男	90	-	-	5.6	7.8	65.6	21.1
	女	124	0.8	1.6	8.1	12.1	58.1	19.4
50代	全体	215	0.5	0.9	4.2	12.6	59.1	22.8
	男	103	1.0	-	2.9	13.6	62.1	20.4
	女	112	-	1.8	5.4	11.6	56.3	25.0
60代前半	全体	88	-	5.7	4.5	12.5	47.7	29.5
	男	36	-	2.8	2.8	13.9	47.2	33.3
	女	52	-	7.7	5.8	11.5	48.1	26.9

【(2)で「1.週に4日以上、活動できる」「2.週に2～3日、活動できる」「3.週に1日、活動できる」「4.月に1～2日活動できる」を選んだ人に伺います。】

(2)-① どのような条件が整えば、進んでボランティア活動に参加したいと思いますか。(当てはまるものすべてに○) 【N=102、117(第7期調査)】

どのような条件が整えばボランティア活動に参加するかについては、「自分が得意なことを生かせるのであれば」が54.9%で最も高く、次いで、「一緒に活動する仲間がいれば」が44.1%で続いています。一方、「特に条件なく活動できる」は12.7%となっています。

第7期調査と比較すると、「特に条件なく活動できる」が9.3ポイント、「活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば」が6.2ポイント、それぞれ上昇し、「一緒に活動する仲間がいれば」が7.2ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『40代男』では「活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば」が、『60代前半男』では「一緒に活動する仲間がいれば」が、その他の性・年齢では全体結果と同様に「自分が得意なことを生かせるのであれば」が、それぞれ最も高くなっています。また、『50代男』では「活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば」も同率で高くなっています。

		合計	特に条件なく活動できる	活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度(ボランティア・ポイント制)があれば	適当な報酬が得られれば	一緒に活動する仲間がいれば	自分が得意なことを生かせるのであれば	その他
40代	全体	40	12.5	37.5	35.0	37.5	55.0	12.5
	男	12	8.3	50.0	8.3	25.0	41.7	16.7
	女	28	14.3	32.1	46.4	42.9	60.7	10.7
50代	全体	38	18.4	47.4	34.2	47.4	57.9	-
	男	18	22.2	55.6	44.4	50.0	55.6	-
	女	20	15.0	40.0	25.0	45.0	60.0	-
60代前半	全体	20	5.0	40.0	40.0	50.0	40.0	5.0
	男	7	-	42.9	42.9	71.4	28.6	-
	女	13	7.7	38.5	38.5	38.5	46.2	7.7

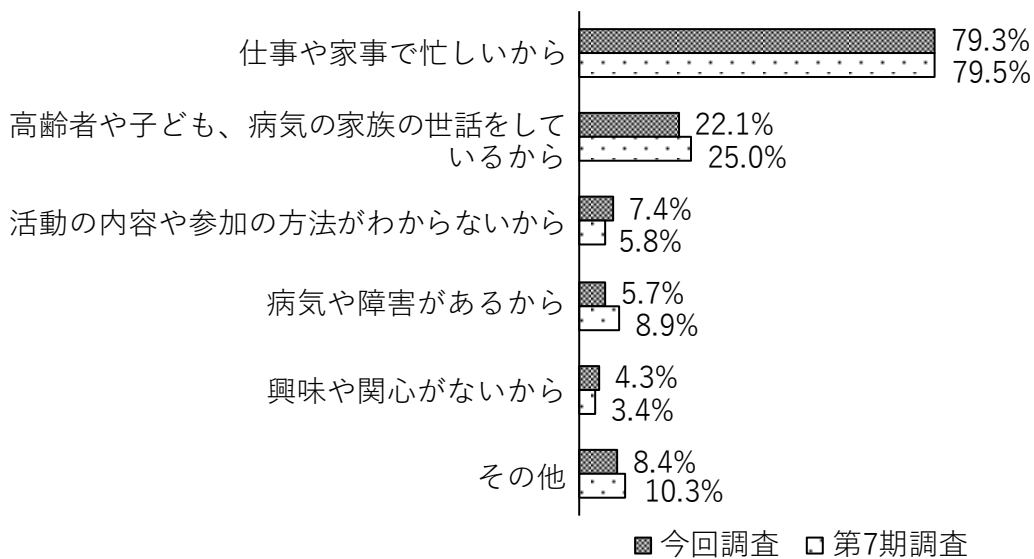
【(2)で「5.活動できない」を選んだ人に伺います。】

(2)-② なぜ、活動できないのですか。(当てはまるものすべてに○)

【N=299、292(第7期調査)】

活動できない理由については、「仕事や家事で忙しいから」が79.3%と突出して高くなっています。次いで、「高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから」(22.1%)、「活動の内容や参加の方法がわからないから」(7.4%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「病気や障害があるから」が3.2ポイント、「高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから」が2.9ポイント、それぞれ低下しています。



性・年齢別クロス

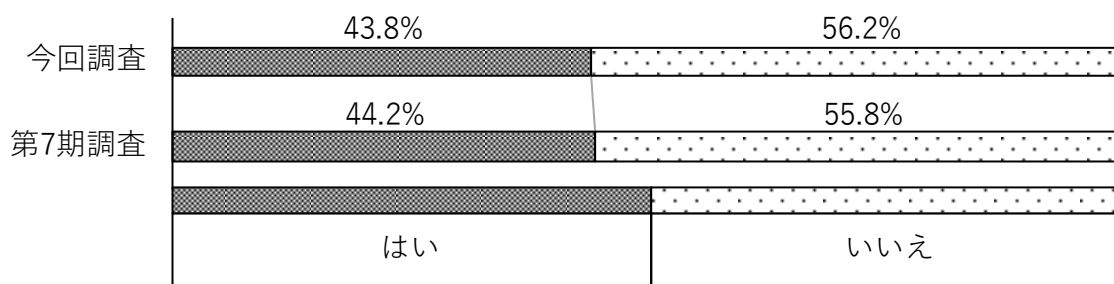
性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも全体結果と同様に、「仕事や家事で忙しいから」が最も高くなっています。また、『50代女』では「高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから」が40.3%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	仕事や家事で忙しいから	病気や障害があるから	高齢者や子ども、病気の家族の世話をしているから	活動の内容や参加の方法がわからないから	興味や関心がないから	その他
40代	全体	126	83.3	5.6	21.4	4.8	6.3	5.6
	男	57	87.7	3.5	10.5	8.8	10.5	3.5
	女	69	79.7	7.2	30.4	1.4	2.9	7.2
50代	全体	125	80.0	6.4	24.8	8.8	3.2	7.2
	男	63	90.5	4.8	9.5	7.9	1.6	4.8
	女	62	69.4	8.1	40.3	9.7	4.8	9.7
60代前半	全体	42	66.7	4.8	16.7	9.5	2.4	19.0
	男	17	82.4	-	-	11.8	5.9	17.6
	女	25	56.0	8.0	28.0	8.0	-	20.0

問6 健康について

(1) 今年度、がん検診を受けましたか。(○はひとつ) 【N=532、532(第7期調査)】

今年度、がん検診を受診した人は43.8%、受診していない人は56.2%となっています。

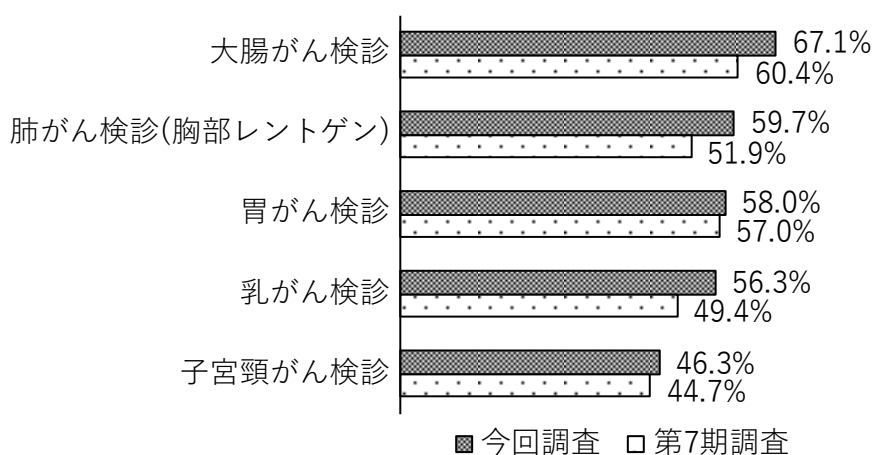


【(1)で「1.はい」を選んだ人に伺います。】

(1)-① 受診したがん検診の種類をお答えください。(当てはまるものすべてに○)
【N=231、235(第7期調査)】

受診したがん検診の種類については、「大腸がん検診」が67.1%で最も高く、次いで、「肺がん検診(胸部レントゲン)」(59.7%)、「胃がん検診」(58.0%)、「乳がん検診」(56.3%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「肺がん検診(胸部レントゲン)」が7.8ポイント、「乳がん検診」が6.9ポイント、「大腸がん検診」が6.7ポイント上昇するなど、すべての検診で上昇しています。

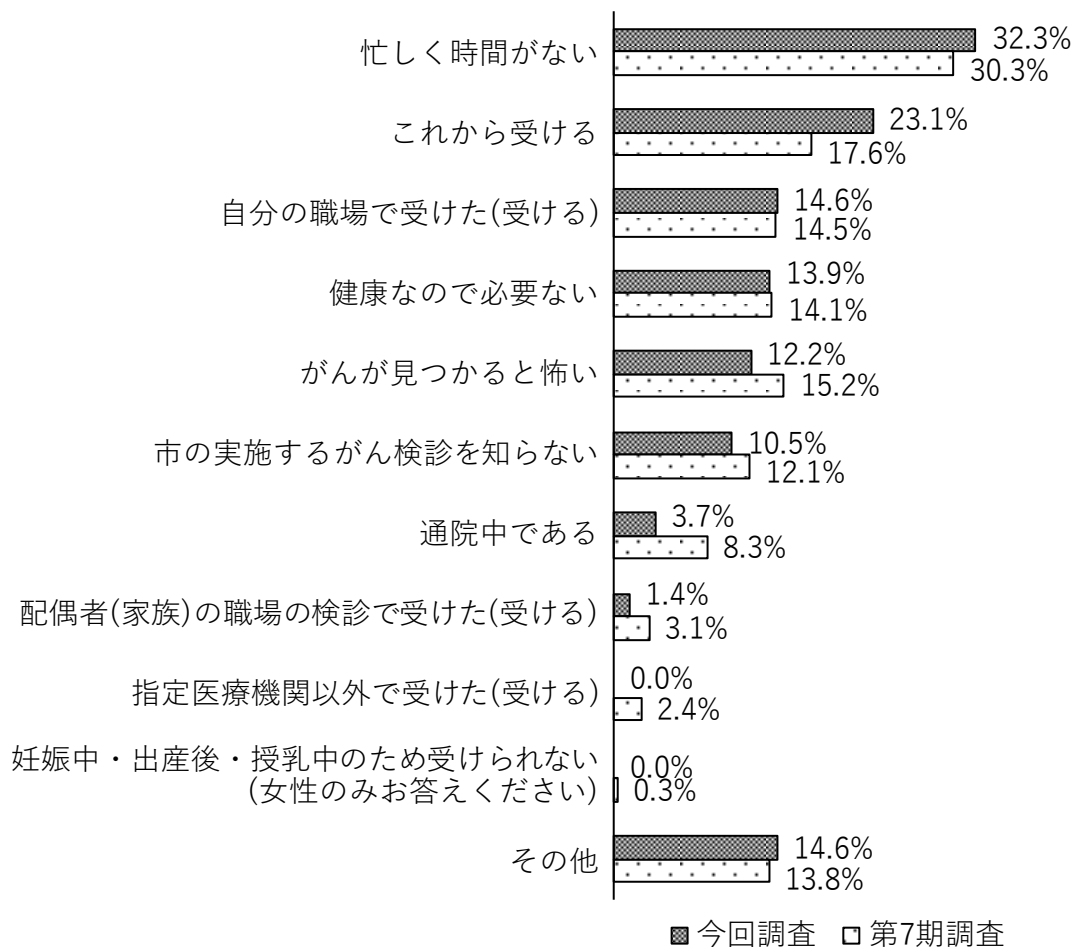


【(1)で「2.いいえ」を選んだ人に伺います。】

(1)-② がん検診を受診していない理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○) 【N=294、290(第7期調査)】

がん検診を受診していない理由については、「忙しく時間がない」が32.3%で最も高く、次いで、「これから受ける」(23.1%)、「自分の職場で受けた(受ける)」(14.6%)が続いています。一方、「市の実施するがん検診を知らない」と回答した人が10.5%あります。

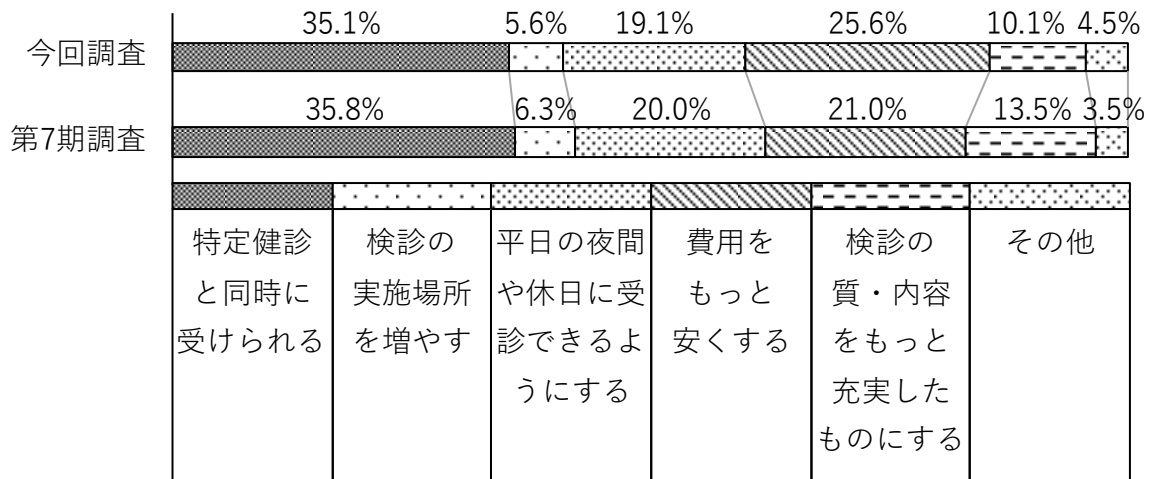
第7期調査と比較すると、「これから受ける」が5.5ポイント、「忙しく時間がない」が2.0ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「市の実施するがん検診を知らない」は1.6ポイント低下しています。



(2) がん検診を受診する体制としてよいと思うものについてお答えください。(○はひとつ) 【N=425、400(第7期調査)】

がん検診を受診する体制としてよいと思うものについては、「特定健診と同時に受けられる」が35.1%で最も高く、次いで、「費用をもっと安くする」(25.6%)、「平日の夜間や休日に受診できるようにする」(19.1%)が続いています。

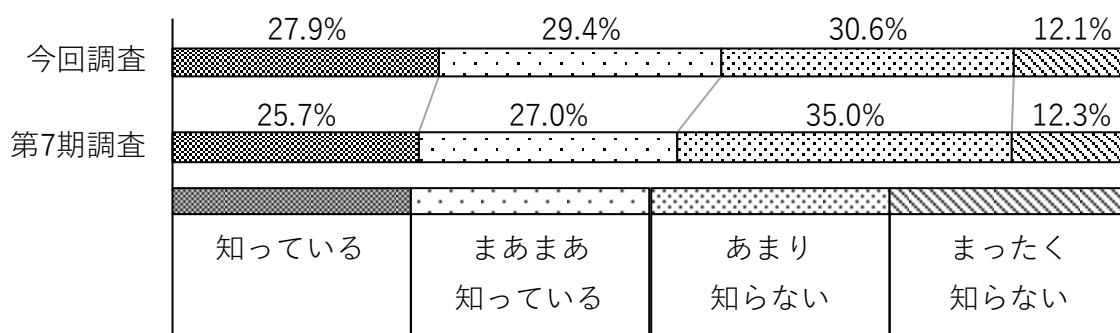
第7期調査と比較すると、「費用をもっと安くする」が4.6ポイント上昇する一方、「検診の質・内容をもっと充実したものにする」が3.4ポイント低下しています。



(3) 1日に必要な野菜の量は1人350gということを知っていますか。(○はひとつ) 【N=527、529(第7期調査)】

1日に必要な野菜の量が1人350gということの認知状況については、「知っている」は27.9%、「まあまあ知っている」は29.4%と、合わせて57.3%の人が『知っている』と回答しています。一方、「あまり知らない」は30.6%、「まったく知らない」は12.1%と、合わせて42.7%の人が『知らない』と回答しており、『知っている』が『知らない』を14.6ポイント上回っています。

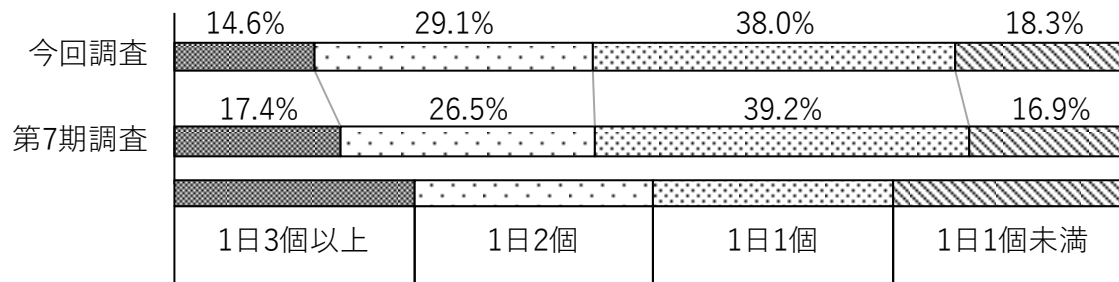
第7期調査と比較すると、『知っている』が4.6ポイント上昇しています。



(4) ここ1週間で野菜の料理(煮物・和え物・サラダ)は片手のげんこつ大1個に換算して1日何個くらい食べていますか。(〇はひとつ) 【N=526、528(第7期調査)】

ここ1週間で野菜の料理を1日何個くらい食べているかについては、「1日1個」が38.0%で最も高く、次いで、「1日2個」(29.1%)、「1日1個未満」(18.3%)が続いています。

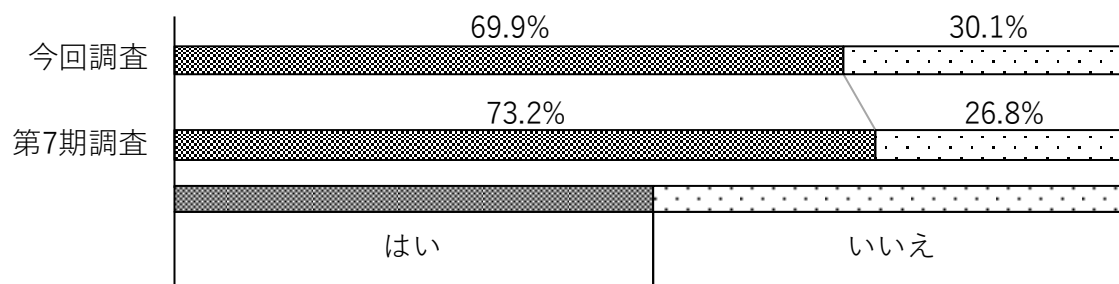
第7期調査と比較すると、「1日2個」が2.6ポイント上昇する一方、「1日3個以上」が2.8ポイント低下しています。



(5) 健康づくりのため、食生活や運動等について実践していることはありますか。(〇はひとつ) 【N=528、529(第7期調査)】

健康づくりのため、食生活や運動等について実践していることの有無については、「はい」が69.9%を占めています。一方、「いいえ」30.1%となっており、実践していることがない人の2倍以上となっています。

第7期調査と比較すると、「いいえ」が3.3ポイント上昇しています。



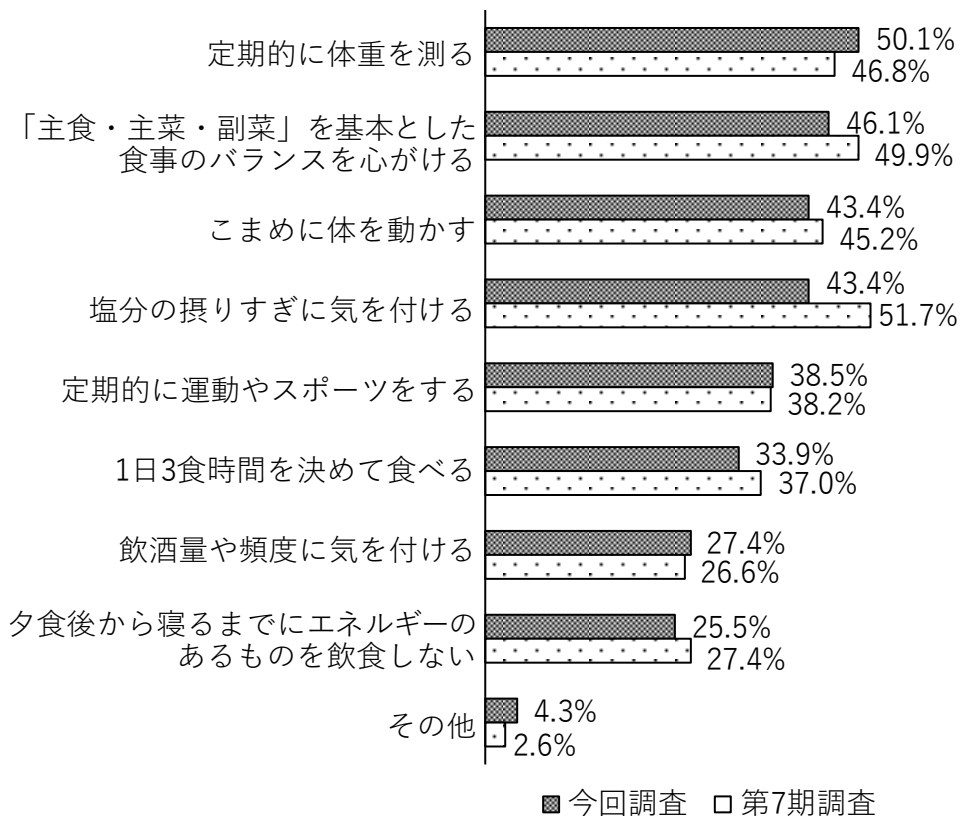
【(5)で「1.はい」を選んだ人に伺います。】

(5)-① 気を付けていることをお答えください。(当てはまるものすべてに○)

【N=369、387(第7期調査)】

気を付けていることについては、「定期的に体重を測る」が50.1%で最も高く、次いで、「主食・主菜・副菜」を基本とした食事のバランスを心がける」(46.1%)、「こまめに体を動かす」(43.4%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「塩分の摂りすぎに気を付ける」が8.3ポイント低下し、「定期的に体重を測る」が3.3ポイント上昇しています。

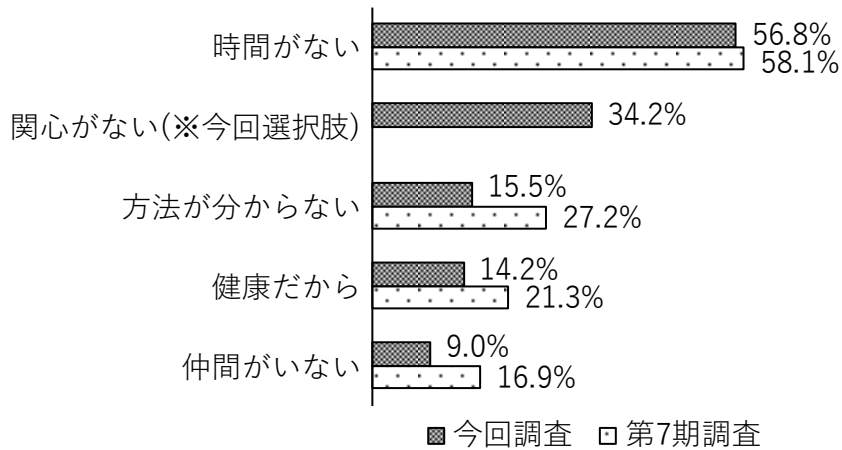


【(5)で「2. いいえ」を選んだ人に伺います。】

(5)-② 実践しない理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

【N=155、136(第7期調査)】

実践しない理由については、「時間がない」が56.8%で最も高くなっています。次いで、「関心がない」(34.2%)、「方法が分からない」(15.5%)が続いています。

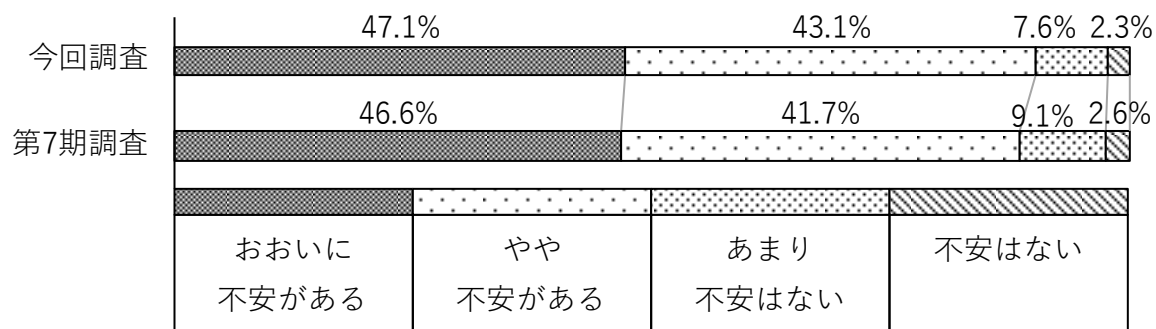


問7 認知症対策について

(1) 将来、ご自身やご家族が認知症になるおそれがあることに対して、不安がありますか。(○はひとつ) 【N=529、530(第7期調査)】

認知症になるおそれがあることに対して、「おおいに不安がある」(47.1%)と、「やや不安がある」(43.1%)を合わせた『不安がある』は90.2%を占めています。

第7期調査と比較すると、『不安がある』は1.9ポイント上昇しています。



介護経験別クロス

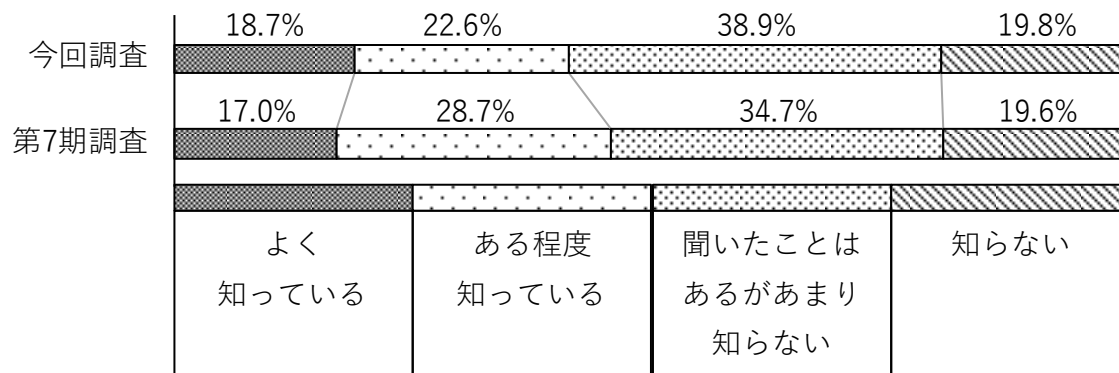
介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「おおいに不安がある」が65.2%に上り、特に高くなっています。

	合計	おおいに不安がある	やや不安がある	あまり不安はない	不安はない
全体	507	47.3	43.0	7.3	2.4
現在、働きながら介護している	46	65.2	28.3	6.5	-
以前、働きながら介護していたことがある	74	58.1	36.5	2.7	2.7
働きながら介護したことはない	387	43.2	46.0	8.3	2.6

(2) 認知症が疑われる場合に相談できる「もの忘れ外来」などの専門医療機関があることをご存じですか。(○はひとつ) 【N=530、530(第7期調査)】

「もの忘れ外来」などの専門医療機関の認知状況については、「聞いたことはあるがあまり知らない」が38.9%で最も高く、「知らない」(19.8%)を合わせると『知らない』は58.7%に上り、認知度はあまり高くありません。一方、「よく知っている」(18.7%)と「ある程度知っている」(22.6%)を合わせた『知っている』は41.3%となっています。

第7期調査と比較すると、『知らない』は4.4ポイント上昇しています。



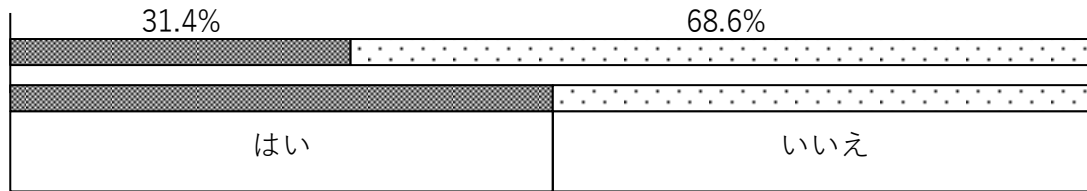
介護経験別クロス

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では、「よく知っている」が40.4%と全体結果を大きく上回っています。

	合計	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるがあまり知らない	知らない
全体	508	18.5	23.0	39.8	18.7
現在、働きながら介護している	47	40.4	12.8	40.4	6.4
以前、働きながら介護していたことがある	74	24.3	29.7	29.7	16.2
働きながら介護したことはない	387	14.7	23.0	41.6	20.7

(3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか(○はひとつ) 【N=528】

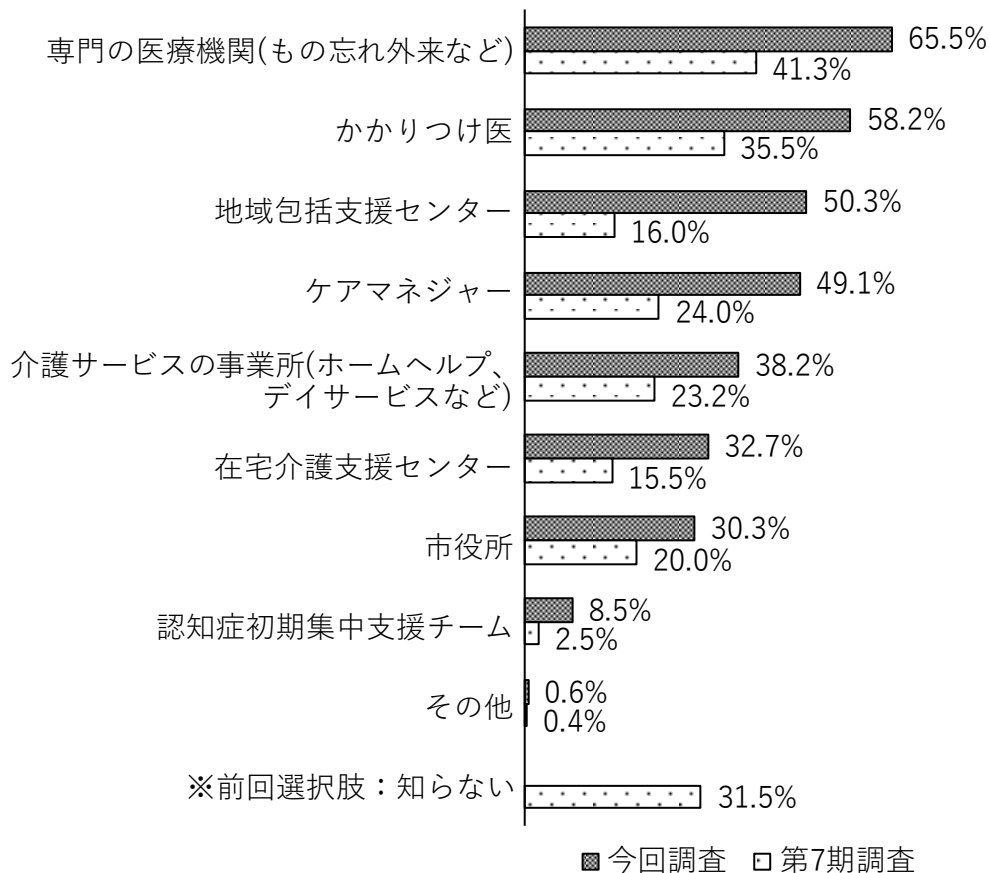
認知症に関する相談窓口の認知状況については、「いいえ」が68.6%、「はい」が31.4%となっており、認知度は低くなっています。



【(3)で「1.はい」を選んだ人に伺います。】

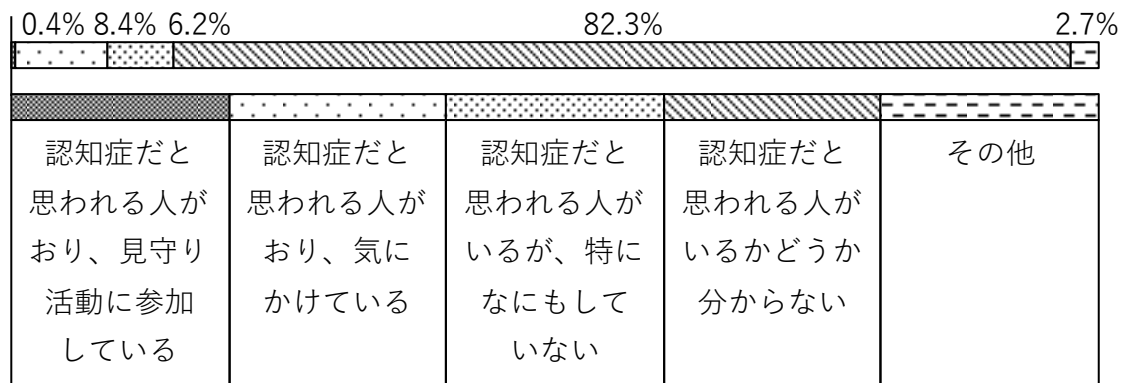
(3)-① 認知症に関する以下の相談窓口をご存じですか。(当てはまるものすべてに○) 【N=165、530(第7期調査)】

知っている認知症に関する相談窓口については、「専門の医療機関(もの忘れ外来など)」が65.5%で最も高く、次いで、「かかりつけ医」(58.2%)、「地域包括支援センター」(50.3%)が続いています。



(4) あなたのお住まいの近所には認知症だと思われる人がいますか。また、そのような人に対して配慮されていますか。(○はひとつ) 【N=514】

近所にいる認知症だと思われる人の状況については、「認知症だと思われる人がいるかどうか分からない」が82.3%で最も高く、次いで、「認知症だと思われる人がおり、気にかけている」(8.4%)、「認知症だと思われる人がいるが、特になにもしていない」(6.2%)が続いています。

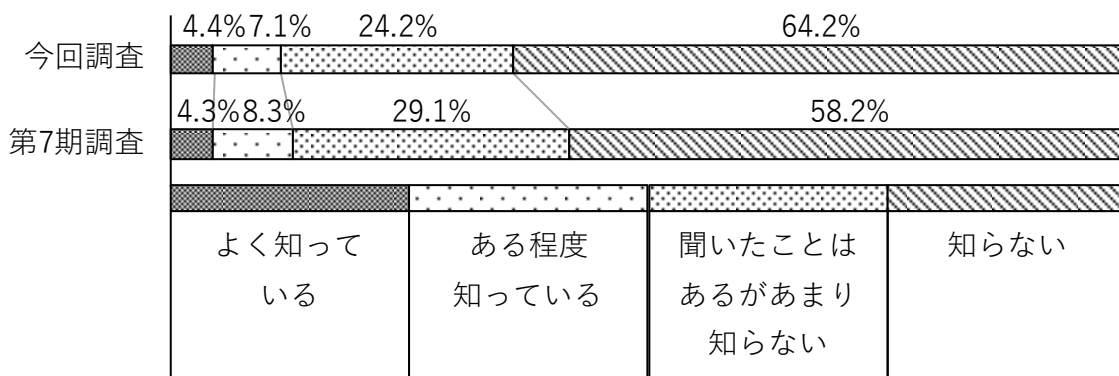


(5) 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存じですか。(○はひとつ)

【N=520、529(第7期調査)】

「認知症サポーター」の認知状況については、「知らない」が64.2%を占めており、「聞いたことはあるがあまり知らない」(24.2%)を合わせると、『知らない』は88.4%に上り、「認知症サポーター」の認知度は低いと言えます。

第7期調査と比較すると、「知らない」が6.0ポイント上昇しています。



介護経験別クロス

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「ある程度知っている」が17.0%、『働きながら介護したことはない』では「知らない」が66.7%と、それぞれ他の介護経験に比べて高くなっています。

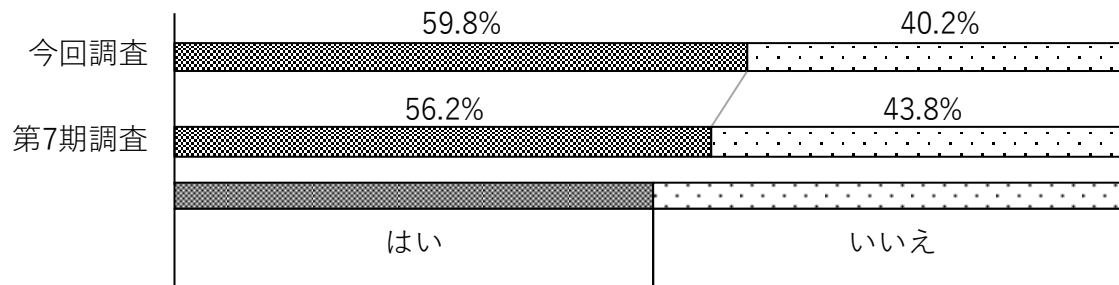
	合計	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるがあまり知らない	知らない
全体	498	4.2	7.4	24.9	63.5
現在、働きながら介護している	47	8.5	17.0	27.7	46.8
以前、働きながら介護していたことがある	70	8.6	8.6	25.7	57.1
働きながら介護したことはない	381	2.9	6.0	24.4	66.7

問8 在宅医療について

(1) あなたには、「かかりつけ医(主治医)」または、いつもかかっている医療機関がありますか。(○はひとつ) 【N=523、530(第7期調査)】

「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関があるかどうかについては、「はい」が59.8%、「いいえ」が40.2%となっています。

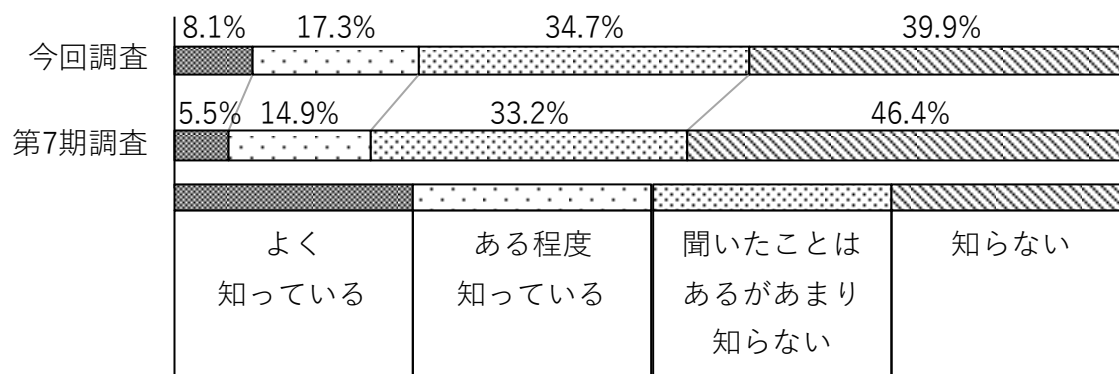
第7期調査と比較すると、「はい」が3.6ポイント上昇しています。



(2) 通院が困難な方へ医師が診療計画を立て、定期的な診療を行う「訪問診療」という制度を知っていますか。(急病になったときに医師に来てもらう「往診」とは別です。)(○はひとつ) 【N=521、524(第7期調査)】

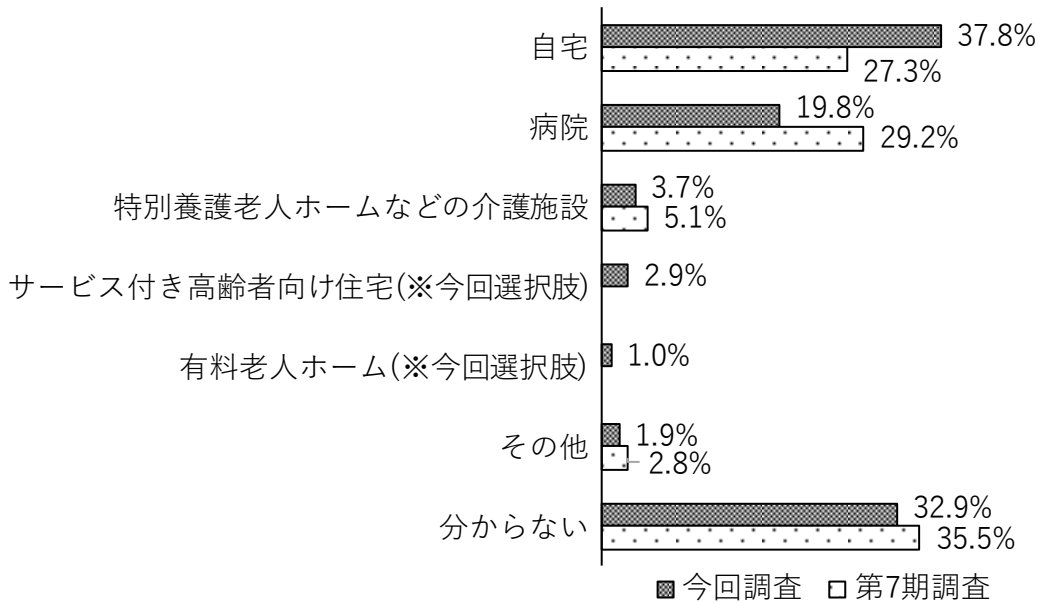
「訪問診療」制度の認知状況については、「知らない」(39.9%)と「聞いたことはあるがあまり知らない」(34.7%)を合わせた『知らない』は74.6%を占めており、「訪問診療」の認知度は低いと言えます。一方、「よく知っている」(8.1%)と「ある程度知っている」(17.3%)を合わせた『知っている』は25.4%となっています。

第7期調査と比較すると、『知っている』が5.0ポイント上昇しています。



(3) あなたは、ご自分が最期を迎える場合、どこで看取られることを希望しますか。
 (○はひとつ) 【N=516、527(第7期調査)】

自分が最期を迎える場所の希望については、「自宅」が37.8%で最も高く、次いで、「分からない」(32.9%)、「病院」(19.8%)が続いています。



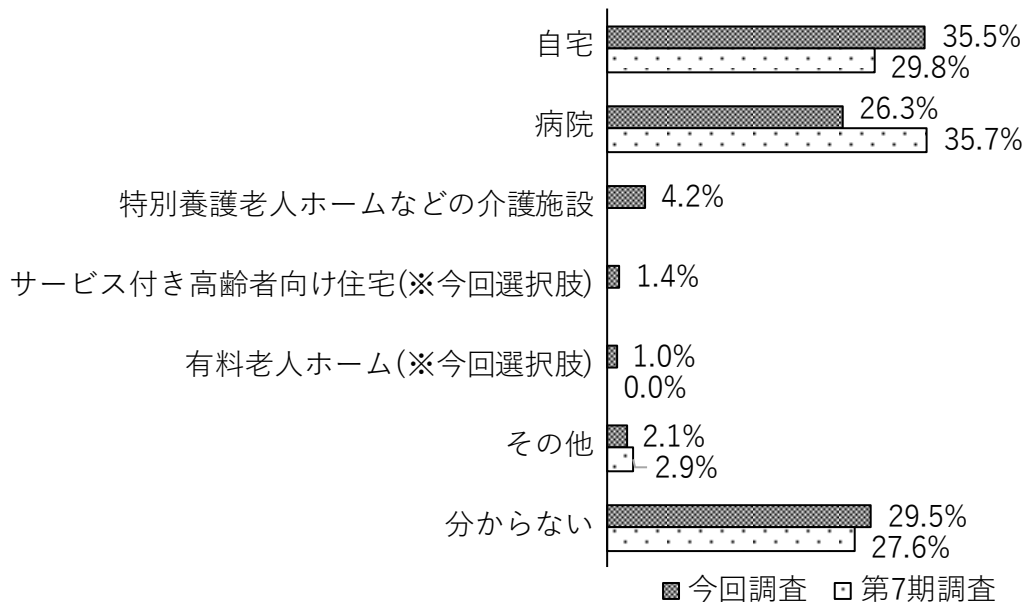
介護経験別クロス

介護経験別にみると、いずれの介護経験でも全体結果と同様に「自宅」が最も高くなっています。次いで、『現在、働きながら介護している』では「病院」が、『以前、働きながら介護していたことがある』と『働きながら介護したことはない』では「分からない」が続いています。

	合計	自宅	特別養護老人ホームなどの介護施設	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	病院	その他	分からない
全体	496	37.7	3.4	1.0	2.6	20.0	1.8	33.5
現在、働きながら介護している	45	33.3	4.4	2.2	6.7	28.9	2.2	22.2
以前、働きながら介護していたことがある	74	41.9	4.1	-	2.7	18.9	2.7	29.7
働きながら介護したことはない	377	37.4	3.2	1.1	2.1	19.1	1.6	35.5

(4) あなたは、ご家族が最期を迎える場合、どこで看取ることを希望しますか。(〇はひとつ) 【N=518、526(第7期調査)】

家族が最期を迎える場合に看取る場所の希望については、「自宅」が35.5%で最も高く、次いで、「分からない」(29.5%)、「病院」(26.3%)が続いています。



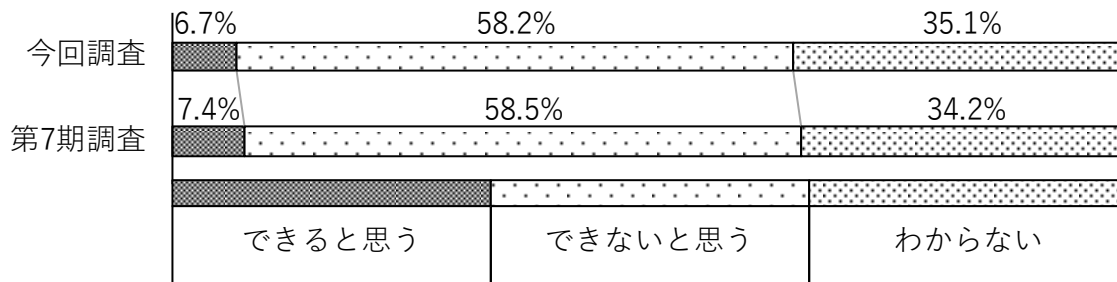
介護経験別クロス

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「病院」が、『以前、働きながら介護していたことがある』と『働きながら介護したことはない』では「自宅」が、それぞれ最も高くなっています。

	合計	自宅	特別養護老人ホームなどの介護施設	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	病院	その他	分からない
全体	498	35.5	4.2	0.8	1.0	26.3	2.0	30.1
現在、働きながら介護している	45	31.1	6.7	-	2.2	35.6	2.2	22.2
以前、働きながら介護していたことがある	74	41.9	4.1	-	-	27.0	1.4	25.7
働きながら介護したことはない	379	34.8	4.0	1.1	1.1	25.1	2.1	31.9

(5) あなた、またはあなたのご家族が介護を必要とし、さらに、治る見込みのない病気になった場合、自宅で最期まで療養することができると思いますか。(○はひとつ) 【N=524、530(第7期調査)】

家族が自宅で最期まで療養することができると思うかについては、「できないと思う」が58.2%を占めています。一方、「できると思う」は6.7%と少なくなっています。



介護経験別クロス

介護経験別にみると、いずれの介護経験別でも全体結果と同様に「できないと思う」が最も高く、特に、『現在、働きながら介護している』では80.4%と非常に高くなっています。

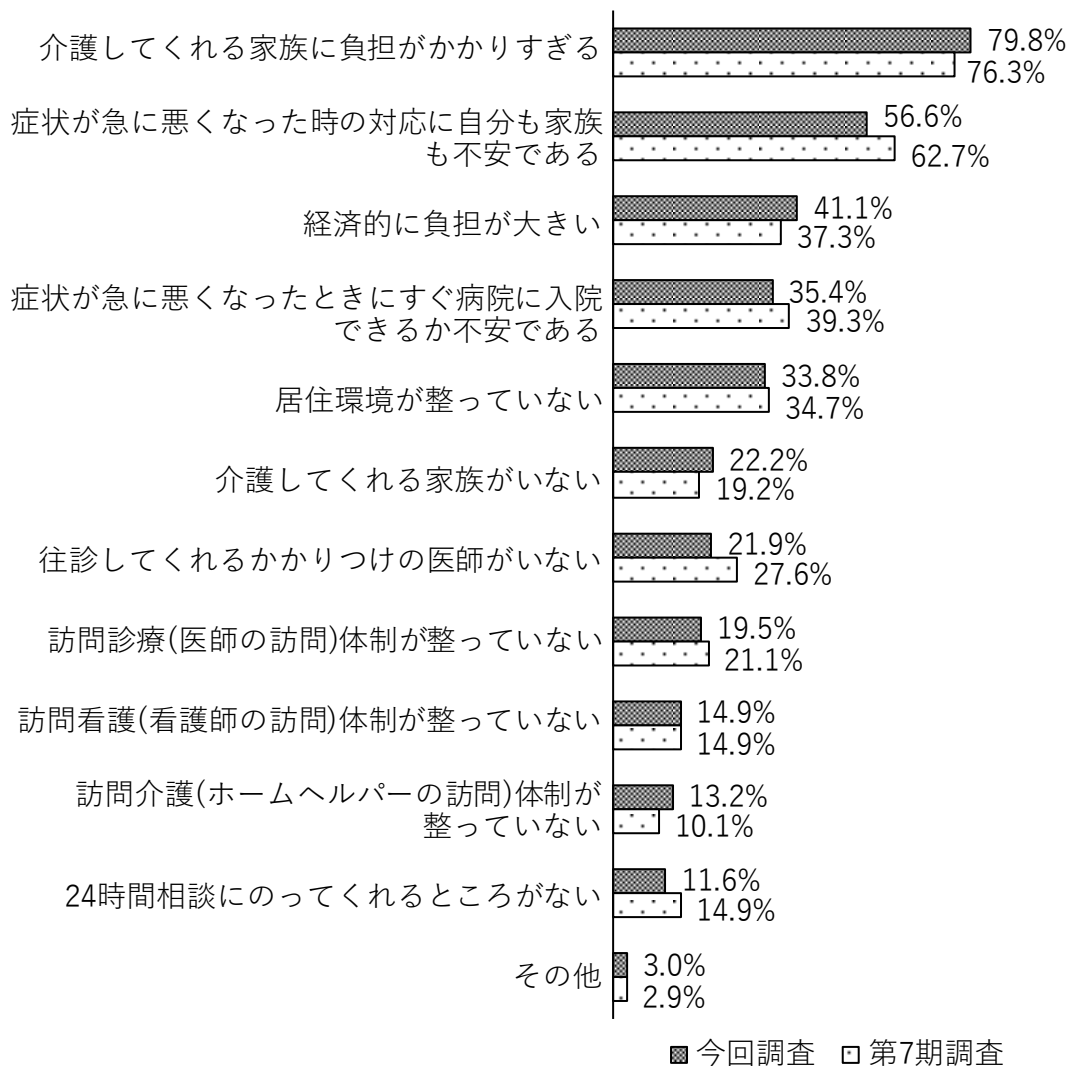
	合計	できると思う	できないと思う	わからない
全体	503	6.8	57.9	35.4
現在、働きながら介護している	46	8.7	80.4	10.9
以前、働きながら介護していたことがある	74	9.5	58.1	32.4
働きながら介護したことはない	383	6.0	55.1	38.9

【(5)で「2.できないと思う」を選んだ人に伺います。】

(5)-① 自宅で最期まで療養することができないと思う理由をお答えください。
 (当てはまるものすべてに○) 【N=302、308(第7期調査)】

自宅で最期まで療養することができないと思う理由については、「介護してくれる家族に負担がかかりすぎる」が79.8%で最も高く、次いで、「症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安である」(56.6%)、「経済的に負担が大きい」(41.1%)、「症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安である」(35.4%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「経済的に負担が大きい」が3.8ポイント、「介護してくれる家族に負担がかかりすぎる」が3.5ポイント、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)体制が整っていない」が3.1ポイント、「介護してくれる家族がいない」が3.0ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安である」が6.1ポイント、「往診してくれるかかりつけの医師がいない」が5.7ポイント、それぞれ低下しています。



介護経験別クロス

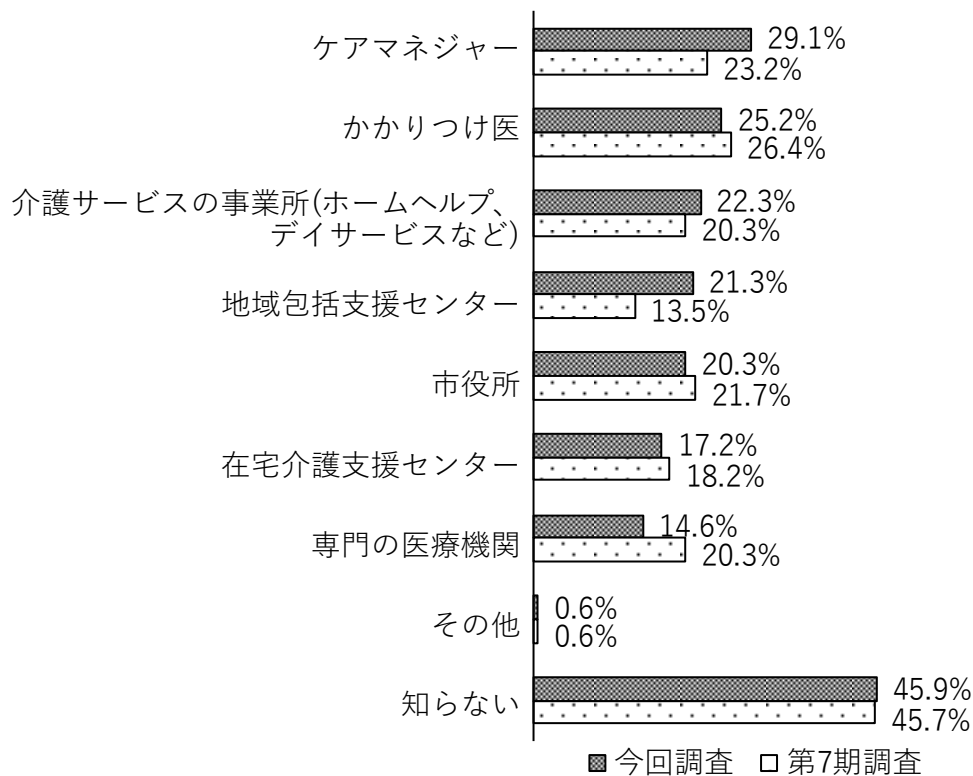
介護経験別にみると、いずれの介護経験でも全体結果と同様に「介護してくれる家族に負担がかかりすぎる」が最も高くなっています。次いで、『以前、働きながら介護していたことがある』では「経済的な負担が大きい」が、『現在、働きながら介護している』と『働きながら介護したことがない』では「症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安である」が続いています。

	合計	往診してくれるかかりつけの医師がいない	訪問診療（医師の訪問）が整っていない	訪問看護（看護師の訪問）が整っていない	訪問介護（ホームヘルパー）が整っていない	24時間相談のつてくるところがない	介護してくれる家族がない	介護してくれる家族に負担がかかりすぎる	対応に自分も家族も不安である	症状が急に悪くなったときに入院できず不安である	症状が急に悪くなったときに入院できない	居住環境が整っていない	経済的に負担が大きい	その他
全体	288	22.2	19.4	15.3	13.9	11.8	21.5	80.2	55.9	35.1	33.0	40.6	3.1	
現在、働きながら介護している	37	29.7	32.4	27.0	27.0	10.8	13.5	81.1	59.5	40.5	40.5	35.1	5.4	
以前、働きながら介護していたことがある	42	21.4	26.2	16.7	11.9	9.5	23.8	81.0	52.4	45.2	33.3	54.8	4.8	
働きながら介護したことはない	209	21.1	15.8	12.9	12.0	12.4	22.5	79.9	56.0	32.1	31.6	38.8	2.4	

(6) 訪問診療や看取りのことなど、在宅医療に関する以下の相談窓口をご存じですか。(当てはまるものすべてに○) 【N=512、512(第7期調査)】

在宅医療に関する相談窓口については、「知らない」が45.9%で最も高くなっています。知っている相談窓口としては、「ケアマネジャー」が29.1%で最も高く、次いで、「かかりつけ医」(25.2%)、「介護サービスの事業所」(22.3%)が続いています。

第7期調査と比較すると、「地域包括支援センター」が7.8ポイント、「ケアマネジャー」が5.9ポイント、それぞれ上昇し、「専門の医療機関」が5.7ポイント低下しています。



問9 これからの高齢者介護について

(1) あなたは、将来、もし介護が必要になった時、どのように介護してほしいとお考えですか。(○はひとつ) 【N=529、528(第7期調査)】

今後、介護が必要になった時にどのように介護してほしいかについては、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい」が34.0%と最も高く、僅差で「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」が33.5%で続いています。一方、「介護保険制度を利用せず、家族に介護してもらいたい」は3.0%となっています。

第7期調査と比較すると、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい」が1.0ポイント低下し、「わからない」が1.7ポイント上昇しています。

	3.0%	34.0%	33.5%	29.5%	
今回調査					
第7期調査					
	2.8%	35.0%	34.1%	27.8%	0.2%
	介護保険制度を利用せず、家族に介護してもらいたい	ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい	特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	わからない	現在、何らかの介護を受けている

介護経験別クロス

介護経験別にみると、『以前、働きながら介護していたことがある』では全体結果と同様に「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅サービスを受けて、在宅で生活したい」が最も高くなっています。一方、『現在、働きながら介護している』と『働きながら介護したことはない』では「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」が最も高くなっています。

	合計	家族介護に保険制度を利用せず、介護保険制度を利用したい	在宅サービスを受けたい	ホームヘルプやデイサービスを受けたい	特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい	わからない	現在、何らかの介護を受けている
全体	507	3.2	34.1	33.5	29.2	-	
現在、働きながら介護している	46	2.2	28.3	43.5	26.1	-	
以前、働きながら介護していたことがある	75	5.3	42.7	22.7	29.3	-	
働きながら介護したことはない	386	2.8	33.2	34.5	29.5	-	

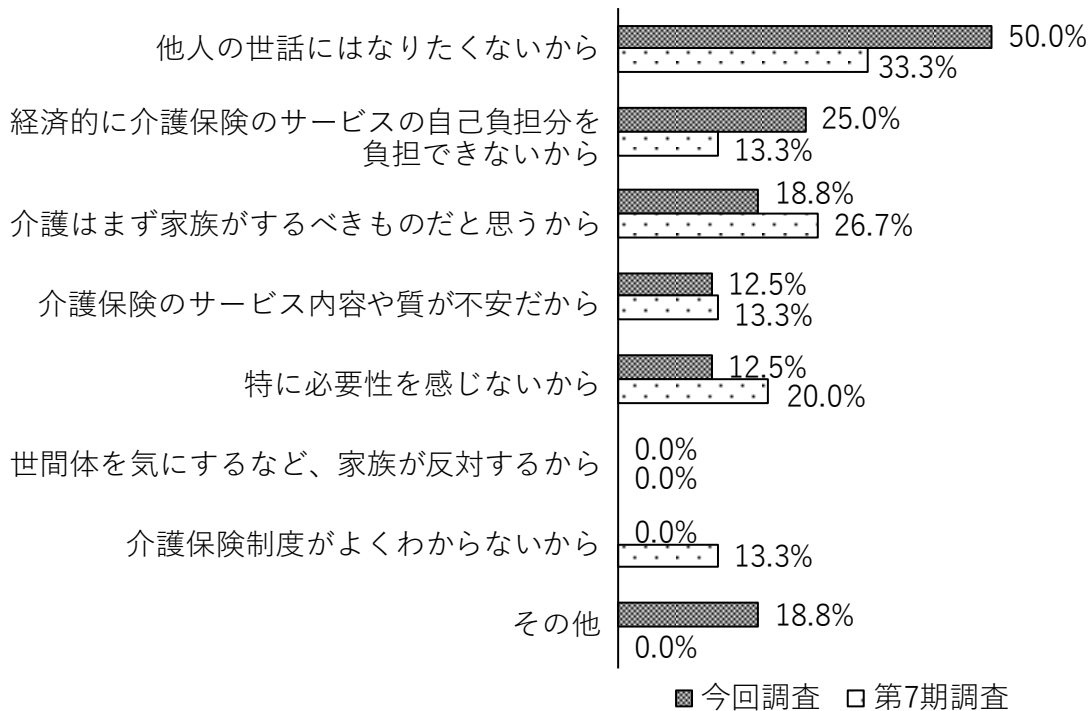
【(1)で「1.介護保険制度を利用せず、家族に介護してもらいたい」を選んだ人に伺います。】

(1)-① その理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

【N=16、15(第7期調査)】

介護保険制度を利用せず、家族に介護を希望する理由については、「他人の世話にはなりたくないから」が50.0%(8人)で最も高く、次いで、「経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから」(25.0%、4人)が続いています。

第7期調査と比較すると、「その他」が18.8ポイント、「他人の世話にはなりたくないから」が16.7ポイント、「経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから」が11.7ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「介護保険制度がよくわからないから」が13.3ポイント、「介護はまず家族がすべきものだと思うから」が7.9ポイント、「特に必要性を感じないから」が7.5ポイント、それぞれ低下しています。



介護経験別クロス

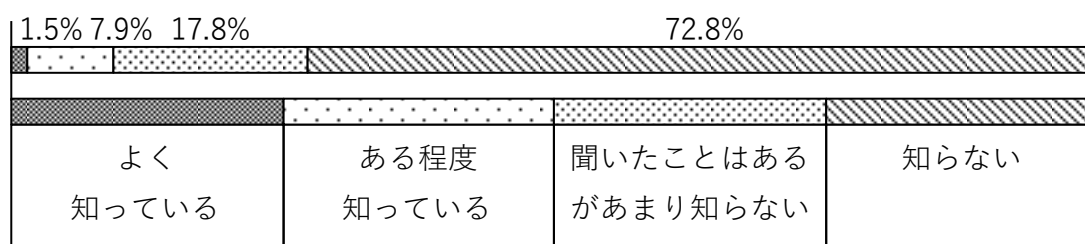
介護経験別にみると、『以前、働きながら介護していたことがある』では「その他」が、『働きながら介護したことはない』では「他人の世話にはなりたくないから」が、それぞれ最も高くなっています。また、『現在、働きながら介護している』では「介護はまず家族がするべきものだと思うから」「他人の世話にはなりたくないから」「経済的に介護保険のサービスの自己負担分を負担できないから」が同率(100%)となっています。

	合計	介護はまず家族がするべき ものだと思うから	他人の世話にはなりたくないから	経済的に介護保険のサービス負担分を負担できないから	介護保険のサービス内容や質が不安だから	世間体を気にするから、家族が反対するから	介護保険制度がよくわからないから	特に必要性を感じないから	その他
全体	16	18.8	50.0	25.0	12.5	-	-	12.5	18.8
現在、働きながら介護している	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-
以前、働きながら介護していたことがある	4	-	-	-	25.0	-	-	25.0	75.0
働きながら介護したことはない	11	18.2	63.6	27.3	9.1	-	-	9.1	-

(2) もしものときのために、ご本人が望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組みのことを「人生会議(A C P : アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。あなたは、「人生会議」または「アドバンス・ケア・プランニング(A C P)」のことを知っていますか。(○はひとつ)

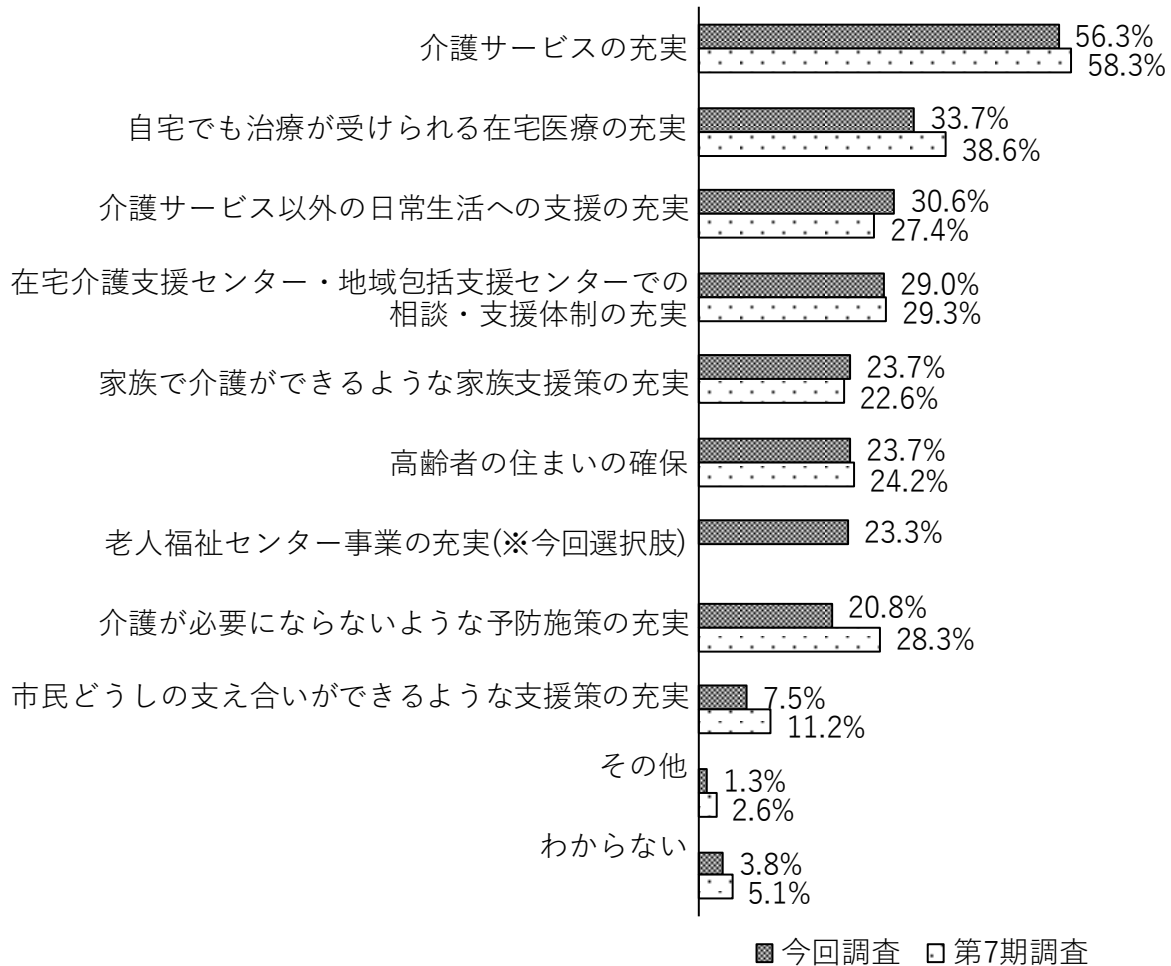
【N=522】

「人生会議」または「アドバンス・ケア・プランニング(A C P)」の認知状況については、『知っている』(「よく知っている」(1.5%)と「ある程度知っている」(7.9%)の合計)は9.4%、『知らない』(「聞いたことはあるがあまり知らない」(17.8%)と「知らない」(72.8%)の合計)は90.6%と、認知度は低くなっています。



(3) 高齢者への介護体制の充実のため、行政にどのようなことを希望しますか。(〇は3つまで) 【N=520、492(第7期調査)】

高齢者への介護体制充実のため、行政に希望することとしては、「介護サービスの充実」が56.3%で最も高く、次いで、「自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実」(33.7%)、「介護サービス以外の日常生活への支援の充実」(30.6%)が続いています。



介護経験別クロス

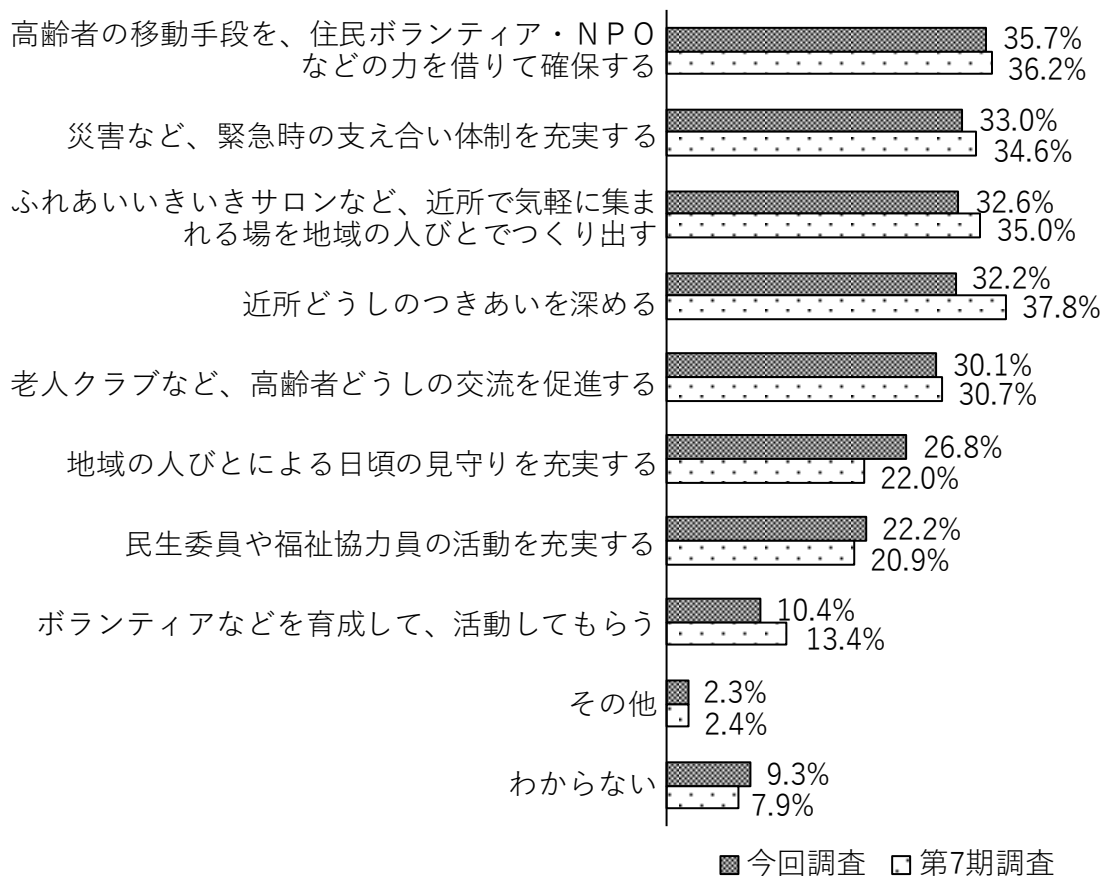
介護経験別にみると、いずれも全体結果と同様に「介護サービスの充実」が最も高くなっています。次いで、『現在、働きながら介護している』では、「介護サービス以外の日常生活への支援の充実」が、『以前、働きながら介護していたことがある』と『働きながら介護したことはない』では「自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実」が続いています。

	合計	自宅でも治療が受けられる在宅医療の充実	介護が必要にならないような予防施策の充実	家族で介護ができるような家族支援策の充実	市民どうしの支え合いができるような支援策の充実	体制の充実	在宅介護支援センター・地域包括支援センターでの相談・支援	介護サービスの充実	介護サービス以外の日常生活への支援の充実	老人福祉センター事業の充実	高齢者の住まいの確保	その他	わからない
全体	498	33.7	21.1	23.7	7.2	29.7	56.4	29.9	23.7	23.3	1.2	3.6	
現在、働きながら介護している	45	20.0	20.0	24.4	2.2	35.6	60.0	44.4	15.6	24.4	2.2	4.4	
以前、働きながら介護していたことがある	72	41.7	16.7	29.2	11.1	34.7	54.2	23.6	25.0	22.2	1.4	4.2	
働きながら介護したことはない	381	33.9	22.0	22.6	7.1	28.1	56.4	29.4	24.4	23.4	1.0	3.4	

(4) 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、地域でどのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで) 【N=518、508(第7期調査)】

高齢者が地域で暮らし続けるために重要なことについては、「高齢者の移動手段を、住民ボランティア・NPOなどの力を借りて確保する」が35.7%で最も高く、次いで、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(33.0%)、「ふれあいいきいきサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(32.6%)、「近所どうしのつきあいを深める」(32.2%)などが僅差で続いており、コミュニティ組織や移動支援、交流機会、緊急時対策が重視されています。

第7期調査と比較すると、「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」が4.8ポイント上昇する一方、「近所どうしのつきあいを深める」が5.6ポイント、「ボランティアなどを育成して、活動してもらう」が3.0ポイント、「ふれあいいきいきサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」が2.4ポイント、それぞれ低下しています。



介護経験別クロス

介護経験別にみると、『現在、働きながら介護している』では「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」が、『以前、働きながら介護していたことがある』では「近所どうしのつきあいを深める」が、『働きながら介護したことはない』では「高齢者の移動手段を、住民ボランティア・NPOなどの力を借りて確保する」が、それぞれ最も高くなっています。

	合計	老人クラブなど、高齢者どうしの交流を促進する	近所どうしのつきあいを深める	近所の人びとで気軽に集まれる場を地域	ふれあいきいきサロンなど、近所の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員や福祉協力員の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、住民ボランティア・NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	わからない
全体	496	29.8	32.1	32.7	27.4	22.2	10.7	36.3	33.5	2.4	8.7
現在、働きながら介護している	45	15.6	35.6	20.0	42.2	17.8	11.1	40.0	37.8	2.2	4.4
以前、働きながら介護していたことがある	73	28.8	39.7	37.0	32.9	20.5	8.2	37.0	35.6	2.7	4.1
働きながら介護したことはない	378	31.7	30.2	33.3	24.6	23.0	11.1	35.7	32.5	2.4	10.1